



日米今、日米で始まるがん撲滅への挑戦! THE JAPAN-US Cancer Eradication Summit 2020 がん撲滅サミット2020[®]

不可能を可能に変えろ!

<https://cancer-zero.com>
参加無料 (HPご覧ください)

～熊本豪雨災害支援～

2020年11月15日(日)

開場 12:30

開演 13:00

会場

東京ビッグサイト
会議棟7F 国際会議場

主催 | 日米がん撲滅サミット2020 実行委員会

共催 | アライアンス・フォーラム財団

協力 | 「AI 体温検知ソリューションシステム」トライブ・ホールディングス・ジャパン株式会社
AIロボ「ユニボ」株式会社エデュゲート、株式会社ワイズ

協賛 | 東レ株式会社、三井住友海上火災保険株式会社、株式会社ツムラ、株式会社ヤクルト本社中央研究所
小野薬品工業株式会社、サノフィ株式会社、ダイダン株式会社、TOTO株式会社、ALSOK総合警備保障株式会社
株式会社エフ・アール・シー・ジャパン、未来トラスト株式会社、アーク不動産株式会社
ジャパンエステート株式会社、トライブ・ホールディングス・ジャパン株式会社、メディカル・サービス株式会社
みやび坂総合法律事務所、株式会社オキ・コーポレーション、株式会社重岡、岡山県極真空手道連盟
ほかの皆様 (順不同)

特別協賛 | 日本航空株式会社

後援 | 外務省、厚生労働省、文部科学省、国土交通省、経済産業省、総務省、農林水産省
AMED国立研究開発法人 日本医療研究開発機構、国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所
東京都、公益社団法人 日本医師会、公益財団法人 日本ホスピス緩和ケア研究振興財団
一般社団法人 日本経済団体連合会、日本商工会議所、公益社団法人 経済同友会、日本製薬団体連合会
一般社団法人 日本建設業連合会、一般社団法人 不動産協会、一般社団法人 生命保険協会
一般社団法人 日本損害保険協会、一般社団法人 全国警備業協会、一般社団法人 情報サービス産業協会
一般社団法人 コンピュータソフトウェア協会、一般社団法人 Medical Excellence JAPAN
読売新聞社 ほか (一部申請中・順不同)

日米がん撲滅サミット 2020 提唱者 歓迎のご挨拶



中見 利男

『日米がん撲滅サミット 2020』代表顧問、提唱者
作家・ジャーナリスト

本日は『日米がん撲滅サミット 2020』にご来場いただきまして誠にありがとうございます。

新型コロナウイルス禍に世界が揺れる中での開催となりましたが、がん撲滅並びにがん医療の改革、そして患者ファーストへの改善もまた喫緊の課題です。これまで行政や医療界には改善を求める患者の皆さんの声がなかなか届かない状況でしたが、おかげ様で昨年、原丈人大会長の下で開催された故・北島政樹先生の追悼大会を終えて、ようやく政府の皆様にもがん撲滅と患者ファーストの重要性をご認識いただけるようになりましたことをこの場をお借りして心より御礼申し上げます。

今大会は、日米両国有志が連携してがん撲滅に向けて前進していこうという趣旨で『日米がん撲滅サミット 2020』の初開催となりました。米国からはシカゴ大学の重鎮マーク・J・ラテイン教授と『タイム』誌が世界に影響を与える 100 人に選出したカリフォルニア大学サンフランシスコ校のローラ・エッサーマン教授に、リモート参加などでご講演をいただきます。お二人とも世界に誇る米国のリーダーでいらっしゃいます。

こうした米国の志ある人々と連携して、我々はいよいよ『不可能を可能に変える』ために本格的にチャレンジを開始して参ります。

AI を導入したプレジジョン医療の推進や、がん予防薬の開発など日米でやれることは限りなく存在します。もちろん新しい治療薬を実用化していくために現行の医薬品等の審査に関する仕組みも見直す必要があります。

こうしたことを実行するための大前提とは、まさに患者ファーストの医療です。その実現のためには我々は医療民主主義を確立する必要があります。

今、菅義偉内閣総理大臣も自助、共助、公助の精神を説いておられますが、それを医療民主主義の世界に置き換えるとどうでしょうか。

自助とは、まず自分一人でも困っているがん患者を助ける。

共助とは、みんなで困っているがん患者を助ける。

公助とは、政府が困っているがん患者を助ける。

そしてがん患者自身も立ち上がり、がん医療を変えていく。

私は、これこそが医療民主主義の基本と考えます。

つまり医療民主主義とは、『がん撲滅サミット』がこれまでオールジャパン、チームマンカインドを目指して歩んで来た道そのものなのです。そこに AI の力を導入していくため、今後、我々は分科会として『がん撲滅 AI サミット』を開始します。

今こそ力を合わせて、力強くがん撲滅に向けて前進を開始致しましょう。

本日は、どうぞごゆっくりお過ごしください。

不可能を可能に変える！
今、日米で始まるがん撲滅への挑戦！

日米がん撲滅サミット2020

日米がん撲滅サミット2020

PROGRAM

12:30 開場 東京ビッグサイト 国際会議場

13:00～13:30 来賓ご挨拶並びにご紹介

日米がん撲滅への戦略講演

13:30～13:50 大会長講演 「がん撲滅・日米連携最前線」
内閣府参与、アライアンス・フォーラム財団 代表理事 原 丈人 先生

13:50～14:05 米国代表講演Ⅰ「米国が描くがん撲滅戦略2020」(リモート講演)
シカゴ大学プレジジョン医療研究センター センター長・教授 マーク・J・ラティン 先生
(臨床試験の国際的リーダーであり、世界のがん医療界の重鎮)

14:05～14:20 内閣総理大臣補佐官講演「がん撲滅に向けた日本政府の挑戦2020」
内閣総理大臣補佐官 内閣官房健康・医療戦略室 室長 和泉 洋人 先生

14:20～14:35 厚生労働省 医務技監講演「がん対策加速化への道2020」
厚生労働省 医務技監 福島 靖正 先生

14:35～14:50 米国代表講演Ⅱ(事前収録講演)
「一人一人の患者に応じたAI導入による早期がん転移及び再発予防について」
カリフォルニア大学サンフランシスコ校 教授 ローラ・エッサーマン 先生
(乳がんの先端的治療開発とがん医療改革によって『タイム』誌が世界に影響を与える100人に選出)

14:50～15:00 〈休憩〉

日米がん撲滅への戦術講演

15:00～15:15 日米がん撲滅サミット2020 ヒポクラテス・プロジェクト講演Ⅰ
「腸管免疫細胞コントロールによるがん予防と治療への挑戦！」
国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所
ワクチン・アジュバント研究センター センター長 國澤 純 先生

15:15～15:30 日米がん撲滅サミット2020 ヒポクラテス・プロジェクト講演Ⅱ
「腸管免疫細胞の活用によるがん・疾病予防最前線」
順天堂大学 特任教授 奥村 康 先生
日米がん撲滅サミット2020 ヒポクラテス・プロジェクト 顧問、(NK細胞の命名者、国際的な免疫学の権威)

15:30～15:45 『クラリベイト・アナリティクス引用栄誉賞』受賞 記念講演
「日本のがん医療革命最前線」
公益財団法人 がん研究会がんプレジジョン医療研究センター 所長
内閣府戦略的イノベーション創造プログラム・AIホスピタル ディレクター
シカゴ大学 名誉教授、東京大学 名誉教授 中村 祐輔 先生

15:45～15:55 休憩(会場設営準備)

15:55 ~ 18:00

日米がん撲滅サミット 2020 公開セカンドオピニオン® ～患者ファーストの医療を確立せよ！ 立ち止まるな日本！！～

司会：中見 利男 氏（日米がん撲滅サミット 2020 代表顧問、提唱者）作家・ジャーナリスト

- 宇山 一朗 先生（消化器外科ダビンチ手術の世界的権威） 藤田医科大学病院総合消化器外科 教授
 - 大園 研 先生（大腸がん、大腸内視鏡手術の世界的権威） NTT 東日本関東病院消化管内科・内視鏡部 部長
 - 藤堂 具紀 先生（ウイルス療法） 東京大学医科学研究所 教授
 - 井本 滋 先生（乳がん） 杏林大学医学部付属病院乳腺外科 教授、一般社団法人 日本乳癌学会 理事長
 - 佐野 圭二 先生（肝胆膵外科） 帝京大学医学部外科学講座 教授
 - 高橋 義行 先生（小児がん・日本版 CAR-T 細胞療法開発者） 名古屋大学大学院医学系研究科小児科学 教授
 - 上園 保仁 先生（統合医療、漢方） 東京慈恵会医科大学疼痛制御研究講座 特任教授
 - 鎌田 正 先生（重粒子線） 神奈川県立がんセンター重粒子線治療施設「i-ROCK」センター長
量子科学技術研究開発機構 放射線医学総合研究所病院 元病院長
 - 清松 知充 先生（大腸腹膜播種） 国立研究開発法人 国立国際医療研究センター下部消化管外科 診療科長
 - 國澤 純 先生（栄養と腸管免疫細胞の活性化） 国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所
ワクチン・アジュバント研究センター センター長
- <順不同>

18:00 閉会の辞 「日米がん撲滅東京宣言 2020」

不可能を可能に変える！
今、日米で始まるがん撲滅への挑戦！

日米がん撲滅サミット2020

高円宮妃殿下お言葉

本日は第1回がん撲滅サミットの開催が盛大に開催され、皆様とご一緒できますことを大変うれしく思います。

日本では2人に1人ががんにかかり、3人に1人ががんで亡くなると言われており、あらゆる病気の中で最も死亡率が高いとかがっております。1981年より日本人の死因第1位を占めており、国民病ともいえるかもしれません。がんは全身のあらゆる部位で発症いたしますし、初期には自覚症状がないため、今でも発見されたときにはすでに進行していて、治療が遅れるケースが多くあります。しかし、早期発見により、完全に治療、治癒することも可能な病です。

医学とがんの闘いは実に長い歴史を持っており、がんの最初の記録は紀元前1500年ごろの古代エジプトの医学書にあります。そして紀元前1400年ごろ、古代ギリシャの医聖ヒポクラテスががんを蟹(かに)を意味するカルキノスという名前をあてがえました。その数百年後に医学論を書いた学者のアウルス・コリネリウス・ケルススがカルキノスをキャンサーとラテン語に訳したのです。英語では今でもがんのことをキャンサーと呼びますが、発がん物質を意味するカルシノシンはヒポクラテスのカルキノスが語源です。

これだけ長く闘っているのですから、がんは医学にとって永遠のテーマであり、人類は終わりなき闘いを繰り返していく運命にあるのかもしれません。進化医学の出番も増えるのかもしれません。

いずれにしろ何事においても、攻めなければ負けしかない中、撲滅を目指すぐらいの意気込みが必須と感じます。お身内にごがん患者がいらっしゃる作家でジャーナリストの中見利男氏の「オールジャパンでがん撲滅に立ち上がろう」という呼びかけに、医学医療のみならずあらゆる分野の方が賛同されたことによって、ここに新たな挑戦が始まるのを心強く思っております。同じ志を持った多くの人間が同じ方向に動けば、大きなエネルギーがうまれます。

かかげておられる目標の中でも、特にがん最先端医療において個々の患者、治療へ直結する医療のベストミックスを早急につくりあげていくことは重要であり、医師力を増進するのは当然として、患者力の向上を目指すのは実に意義深いことと考えます。

がんに関する先端医療や名医に関する情報を発信することや、患者主体の治療が出来る社会を再構築すること、患者や家族が的確な決断の出来る医療社会を再構築することなど、患者とその家族の立場に立って考えるのは日本の医療の本質ではないでしょうか。

インターネットを駆使したシステムや遠隔医療、遠隔治療などを含む医療は、日本のみならず医療の十分ではない国や地域に希望の光となることでしょう。その昔、医学においては視野を広く持つことが普通でしたが、研究がめざましく進み、医学が進歩した今日では分野ごとに孤立してしまっています。人間は社会的な動物であり、優れたコミュニケーション能力を有していますので、新しい時代の医療には皆がアクセスできる引き出しの多い総合的に意見交換が速やかにできる環境が整備されることを期待しております。

本日のがん撲滅サミットが学術的に実りと発展性のある大会となりますよう、またがんの撲滅、及びがん偏見の撲滅に一日でも早くつながりますよう心より願って開会式に向ける言葉と致します。

(2015年6月9日開催の第1回がん撲滅サミットにご来臨を賜りました)

日米がん撲滅サミット 2020 開会式

ご来賓ご紹介

内閣総理大臣 **菅 義偉** 様
(代理 内閣総理大臣補佐官 和泉 洋人 様)

厚生労働大臣 **田村 憲久** 様
(代理 厚生労働省医務技監 福島 靖正 様)

東京都知事 **小池百合子** 様

米国代表
シカゴ大学プレジジョン医療研究センター
センター長・教授 **マーク・J・ラティン** 様
(リモート出席)

公益社団法人 日本医師会 会長 **中川 俊男** 様

『日米がん撲滅サミット 2020』特別顧問
元内閣官房政策参与 元厚生労働 事務次官 **二川 一男** 様

『クラリベイト・アナリティクス引用栄誉賞』受賞者
公益財団法人 がん研究会 がんプレジジョン医療研究センター所長
シカゴ大学 名誉教授、東京大学 名誉教授 **中村 祐輔** 様

一般社団法人 日本経済団体連合会 審議委員会 副議長
アステラス製薬株式会社 代表取締役会長 **畑中 好彦** 様

『日米がん撲滅サミット 2020』副大会長
国立研究開発法人 国立国際医療研究センター 理事長 **国土 典宏** 様

国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 理事長 **米田 悦啓** 様

地方独立行政法人 大阪府立病院機構
大阪国際がんセンター 総長 **松浦 成昭** 様

『日米がん撲滅サミット 2020』顧問
株式会社エフ・アール・シー・ジャパン 代表取締役社長 **清水 美博** 様

『日米がん撲滅サミット 2020』大会長
内閣府参与、アライアンス・フォーラム財団 代表理事 **原 丈人** 様

〈順不同〉

不可能を可能に変える！
今、日米で始まるがん撲滅への挑戦！

日米がん撲滅サミット2020

大会長 ご挨拶



原 丈人

『日米がん撲滅サミット 2020』 大会長
内閣府参与
危機管理会社法制会議 議長
米合衆国公益法人 アライアンス・フォーラム財団 代表理事
(国連経済社会理事会の特別協議資格を有する合衆国非政府機関)
大阪大学医学部大学院医学研究科 招聘教授

『日米がん撲滅サミット 2020』 大会長として、一言ご挨拶申し上げます。

おかげ様で新型コロナウイルス禍の中で本年も本大会を開催することができました。

政府、経済界、医療界、そして各界の皆様、ご協賛いただいた皆様、関係者、患者の皆様にご心より御礼申し上げます。

今年は米国よりマーク・J・ラティン教授、ローラ・エッサーマン教授という世界のリーダーにもリモート参加をいただき、太平洋をはさんだ日米両国ががん撲滅に向けて連携することになった歴史的一歩の大会となります。

振り返れば 2013 年、私は「天寿を全うする直前まで健康であることを実現できる世界最初の国に日本になる」というビジョンを掲げました。さらには、2050 年までには人類を苦しめている 6,500 種類の難病も日本でなら治療の可能性があると世界的な評価をつくりたいと考えています。

これを実現するためには三つの要素が必要になります。「技術イノベーション」「制度イノベーション」そして「エコシステム」です。

技術イノベーションは、文字通り不慮の事故による障害や、がん、心疾患、感染症、難病などで健康な生活を奪われても治療し、再び健康な生活を取り戻せるための医学分野の科学技術開発のことです。

制度イノベーションは、技術イノベーション以上に大切ともいえます。

技術イノベーションの結果、健康を回復できる治療法が完成したとしても、これを速やかに必要とする人々が使えるような制度設計を行うことを制度イノベーションと言います。

現在は、世界の多くの国々が米国食品医薬局（FDA）の定める新薬許認可制度に倣っています。この制度で認可をとるには 10 年以上の年月がかかるので、数年の余命告知を受けた患者は薬を手にする前に最期を迎えてしまいます。

患者の立場に立ってみれば有効性が確立できていなくても、可能性さえ予測できる場合には、安全性確認ができた段階で新薬を手にしたはずです。このような制度改革のためのイノベーションが必要になってきます。

三つ目のエコシステムとは、技術イノベーションと制度イノベーションに関連を持たせ、お互いに前向きの影響を与えながら前進させていくための仕組みのことを指します。

技術イノベーションと制度イノベーションがばらばらに動いていてもなかなか機能しない。そこでビジョンを実現するため、エコシステムとして「天寿を全うする直前まですべての人々が健康で暮らせる社会の構築」を目指して、2012年にワールド・アライアンス・フォーラム サンフランシスコ会議を発足させました。

さらに私は昨年開催したワールド・アライアンス・フォーラム サンフランシスコ会議で、がん撲滅にも取り組む決意を日本の中見利男氏にもお伝えしたところ、日米でがん撲滅をやりましょうというご提案をいただきました。そこから我々はがん撲滅に向けて本格的スタートを切らせていただいたのです。

今、日本に必要なことはがん医療界に革新的な技術を導入し、その力によってがんを撲滅するという力強いエネルギーです。海外で標準治療になるのを待ってから我が国が追随するというのでは壁は突破できません。自らが先頭に立って壁を突破しようと工夫しなければなりません。

主だったがんの撲滅を2030年までに実現し、世界で最初の「がん撲滅国家」となることを目指そうではありませんか。私はがん撲滅と並行して心臓病、脳、肝臓、肺などの病気治療技術や環境の向上、車椅子や失明からの解放など「大病をしても回復し寿命を全うする直前まですべての国民が健康に暮らせる世界最初の国をつくる」ことに向けて、これからも尽力していきたいと思えます。

同時に心身の健康とともに経済面においても余裕を持てる社会の構築が必要です。数多くの国民がコロナ厄災のために職を失い、住む場所までも失っている現状に対応すべく政府は支援金や補助金制度を拡充し、強制的な指示を国民にすることがない中で、海外諸国と比べてもそれなりの効果を上げていますが、世界的な金融緩和措置の恩恵は解雇された中間層、非正規雇用者や底辺にある人々には届かず、株式市場にお金流れ高速取引を行うファンドやアクティビストたちだけが潤う構造は日本でも同じです。これはあまりにも理不尽です。このような状態を正そうとする動きを政府内で起こす必要があるのです。

不可能を可能に変える！
今、日米で始まるがん撲滅への挑戦！

日米がん撲滅サミット2020

そこで、日本政府にあらたに危機管理会社法制会議を法務大臣のもとで設置されましたので、この重要問題の解決に向けて全力で取り組みます。財務省法人統計によりますと我が国には約280万社の会社がありますが、現行の会社法では長年にわたって社員の努力の結晶として積み立てられた貯金のような留保金を、村上ファンドのようなわか株主の「今だけ自分だけの金だけの」要求に対してなすがまま特別配当などの形で株主に還元できるようになっています。将来の日本が感染症危機、地震津波などの自然災害危機で会社が長期にわたって売り上げを維持することが出来ないような状態が訪れることは十分に予想できます。このような危機の時に、過去に積み立てた利益を株主還元にするのではなく、社員とその家族を守るために使えるような会社法体系に変えていくことは政府の国民に対する責務であると考えます。会社法の所管は法務省です。経済危機から国民生活を守るための会社法の見直しを行うことを内閣府参与の立場で4月頃から提案しようやく9月に発足に至ったのが法務省危機管理会社法制会議なのです。

再びがん撲滅の話題に帰りますが、日本のみならず世界の力を合わせて新しい力を生み出しましょう。免疫療法、ウイルス療法、より安全で効果的な放射線療法など次々と新しい技術を取り入れて技術イノベーションを我が国がリードしていきましょう。そのためには、断固として制度イノベーションを押し進め、どんな圧力も抵抗勢力も恐れぬ。それこそが中見利男氏が提唱する医療民主主義の確立です。でなければ世界をリードできるようながん撲滅を実現できる国にはなれません。真のイノベーションを起こすことができません。

そこで今大会のテーマは『不可能を可能に変える！ 今、日米両国で始まるがん撲滅への挑戦！』と致しました。

がん患者がそこにいる以上、我々は現状に満足して立ち止まることは許されません。「がん撲滅」という人類のニューフロンティアに対し、不可能を可能に変えるため共に前進しようではありませんか！

もう、がん撲滅は日本人だけの戦いではありません。人類全体の戦いにしなければなりません。本日、私共はそれを実感していただける大会にして参ります。

来年は、がん撲滅サミットを大阪の地で行うことを決定いたしました。「いのち輝く未来社会に向けて」という理念を掲げる2025年の関西万博の会場となる大阪で12月5日に開催いたします。ご期待ください。



菅 義偉

内閣総理大臣

『日米がん撲滅サミット 2020』の開催、おめでとうございます。

新型コロナウイルス感染症が終息していない状況下において、医学の進歩に向け、皆様が日々取り組まれていることに心より敬意の念を表したいと思います。

日米の医学協力は、昭和 40 年の佐藤栄作総理大臣とリンドン・ジョンソン大統領との会談に基づいて「日米医学協力計画」が始まって以来、50 年以上に亘る緊密な連携の歴史があります。こうした日米連携を、我が国の医療分野における国際連携活動の中核として位置付け、今後さらなる関係強化に向けて取り組んでいきたいと考えております。今回の日米がん撲滅サミット 2020 の開催が、日米の協力関係の一層の発展につながることを期待するものです。

さて、先人の方々も含めたご尽力の成果もあり、我が国は、世界最高水準の平均寿命を達成し、人類誰もが願う長寿社会を現実のものとししました。これからは、人生 100 年時代を見据え、健康な状態で長生きしていただく「健康長寿社会」を実現することが大きな課題となっています。

政府では、全閣僚からなる健康・医療戦略推進本部の下、医療分野の先端的研究開発や新産業創出等を推進し、健康寿命の更なる延伸の実現に向けた取り組みを進めています。

中でも、長らく死因の首位を占めてきたがんについては、平成 30 年 3 月に第 3 期のがん対策推進基本計画を決定し、①科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実、②患者本位のがん医療の実現、③尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築、を目標に掲げ取り組みを進めています。

また、近年、個々人に最適化した患者本位のがん医療として「がんゲノム医療」が注目されています。昨年 12 月に策定した全ゲノム解析等実行計画を着実に推進し、治療法のない患者に新たな個別化医療を提供するべく、産官学の関係者が幅広く分析・活用できる体制整備を進めてまいります。

加えて、治療と仕事の両立支援を進めるため、企業の意識改革や両立を可能とする社内制度の整備促進や企業、医療機関とそれらと連携するコーディネーターによるトライアングル型のサポート体制の構築など、がんになっても自分らしく生きることのできる地域共生社会の実現を目指しています。

これらの施策により、いつ、どこにいても安心して納得できる医療や支援を受けられるよう引き続き取り組み、ひいてはがんを克服し、活力ある健康長寿社会を形成していきたいと考えています。

最後に本会合がご参加の皆様にとって実り多きものとなることを期待いたしまして私のメッセージといたします。

日米がん撲滅サミット2020

厚生労働大臣 メッセージ



田村 憲久

厚生労働大臣

『日米がん撲滅サミット2020』の開催、誠におめでとうございます。がん患者やご家族の皆様を始め、医療従事者や医学研究者及び各業界における企業の方々等がお集まりになり、本サミットが盛大に開催されることは素晴らしいことです。開催に御尽力された関係者の皆様に、深く敬意を表します。

我が国において、がんは、昭和56（1981）年から死因の第1位であり、生涯のうちに国民の約2人に1人ががんに罹患し、3人に1人ががんで亡くなっているなど、依然として、国民の生命と健康にとって重大な問題です。

厚生労働省では、がん対策のより一層の推進を図るため、2018年3月に閣議決定した「第3期がん対策推進基本計画」に基づき、「がん予防」、「がん医療の充実」、「がんとの共生」を3本柱として、皆様が安心かつ納得できるがん医療や支援を受け、尊厳を持って自分らしく生きることの出来る社会を実現していきたいと考えております。

がん予防については、がんによる死亡率の減少という目標を達成していくため、生活習慣の改善や、ウイルスや細菌の感染等の予防可能ながんのリスクの軽減、また、科学的根拠に基づくがん検診の推進や受診率向上、精度管理の更なる向上等に取り組んで参ります。

また、がん医療の充実については、個々人の体質や病状に適した、より効果的で効率的ながんの診断、治療、予防が可能となるがんゲノム医療等の推進を図ること、それぞれのがんの特性に応じてがん医療の均てん化・集約化を行い、効率的かつ持続可能ながん医療を実現すること等に努めて参ります。

さらに、がんとの共生については、がん患者の就労支援の推進を図るため、関係者等が、医療・福祉・介護・産業保健・就労支援分野等と連携し、効率的な医療・福祉サービスの提供や、就労支援等を行う仕組みを構築することで、患者の状況に応じた治療と仕事両立プランを活用したトライアングル型サポート体制の構築を進めています。

最後に、本サミットの成功と本日お集まりの皆様方の今後ますますの御発展、御健勝を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。



小池 百合子

東京都知事

「がん撲滅」をテーマに立ち上げられたこのサミットが、6回目の開催を迎えられますことを、心よりお慶び申し上げます。

また、今回は、日米両国が連携して取り組むはじめてのサミットとなりました。皆様のがん撲滅の熱意が世界に向かって大きく広がろうとしており、大変嬉しく思います。

日々がん治療、がん研究に取り組まれている皆様におかれましては、心から敬意を表しますとともに、実行委員会や事務局の皆様をはじめ、開催に御尽力された関係者の皆様に感謝申し上げます。

がんは、昭和52年（1977年）以降、都民の死因の第1位であり、現在、都民のおよそ3人に1人が、がんで亡くなっています。高齢化が加速している東京都では、がん患者の今後一層の増加が予測されております。

このため、都は平成30年3月に『東京都がん対策推進計画（第二次改定）』を策定し、「がん患者を含めた都民が、がんを知り、がんの克服を目指す」という全体目標の下、「科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実」、「患者本位のがん医療の実現」、「尊厳を持って安心して暮らせる地域共生社会の構築」の三つを目標に掲げました。

都民が、がんに関する理解を深め、がんの患者や経験者の方が、必要な支援を受けながら、罹患する前と変わらず自分らしい生活をおくることができるよう、都は上記の計画に基づき、様々な施策を推進しております。例えば、がん治療と仕事の両立の推進に向けては、がんと闘う従業員を新たに採用したり継続雇用している事業主を支援しております。また、がん患者やその家族の方のQOL（生活の質）の維持・向上に向けては、切れ目なく緩和ケアを受けられる体制を構築していく事業などに取り組んでおります。

こうした施策の展開等を通じて、都は今後も関係者の皆様とともにがん対策を総合的に推進してまいります。

最後に、このサミットが、お集まりの皆様にとって実りのある場となりますとともに、がんと闘う患者と御家族の皆様の希望につながりますこと、また、皆様の今後の益々の御発展、御健勝を祈念いたしまして、私からのメッセージとさせていただきます。

日米がん撲滅サミット2020

米国代表 メッセージ I



マーク・J・ラテイン

レオン・O・ジェイコブソン 医学教授
プレジジョン医療研究センター センター長
シカゴ大学医学部総合がんセンター臨床科学担当 副所長

『日米がん撲滅サミット 2020』に参加させていただいたことは実に光栄です。そして『がん撲滅サミット』提唱者で作家・ジャーナリストの中見利男氏より有難いご招待をいただいたこと、さらに菅義偉内閣総理大臣、和泉洋人総理補佐官に改めて感謝申し上げます。また、原丈人大会長、中村祐輔博士、日本政府、経団連・日本経済団体連合会、そして日本の医学界と協力して、世界中のがん撲滅という重要な問題に取り組めることを非常に嬉しく思います。

この大会は、昨年日本政府とアライアンス・フォーラム財団が主催したサンフランシスコでの『2019 ワールド・アライアンス・フォーラム』から益々勢いを加速しました。このフォーラムでは、がんとの闘いに焦点を当てて、高齢化という医療問題に取り組んでいましたが、私自身このフォーラムに参加して多くの世界的な専門家とコミュニケーションを取り、シカゴ大学医学部総合がんセンターで開発されているがんに対する個別化治療法の最新のイノベーションを共有する機会を得ることができました。このような有意義な連携の機会を創出していただいた日本政府と原大会長を改めて称賛したいと思います。

日米両国には、これまでがん撲滅のために協力してきた長い歴史があります。私はシカゴ大学の同僚として、本日で参加されている著名ながん研究者であり、ゲノム研究者の中村祐輔博士と、こうして再び連携できることを光栄に存じます。

これまで実施してきた日米の協力を通じて、私たちはがんの薬理ゲノミクスにおいて重要な発見をすることができましたが、今後は本サミットが提唱する日米がん撲滅ネットワークによって、さらに相互に有益かつ、がん医療を前進させるために力を発揮する良き成功例の1つとなることでしょう。

『日米がん撲滅サミット 2020』を開催するにあたり、今後日米で力を合わせて、プレジジョン医療を強力に推進していくことや、がん予防に貢献する治療法開発ネットワークの構築などの面で、我々が世界中のがんへの取り組みに影響を与えていくことを心より楽しみにしています。



ローラ・エッサーマン

医学博士 MBA

カリフォルニア大学サンフランシスコ校

キャロル・フランバックプレストケアセンター所長

アルフレッド A. デロリミエ寄附講座総合外科

カリフォルニア大学サンフランシスコ校外科 および放射線医学教授

(米『タイム』誌が世界に影響を与える 100 人に選出)

『日米がん撲滅サミット 2020』の開催に対して、日本政府、原文人大会長、本サミットの提唱者中見利男氏、経団連、そして各界の皆様にお祝い申し上げます。

国際社会の力を結集して、がんの治療と研究へのアプローチを改善し、バイオマーカーの使用を最適化して成功の可能性を最大限に高める方法を見つけることは大きな挑戦です。

我々は進歩していかなければなりません。現在はもちろん、過去から得た教訓を他の人々と共有する能力を増進し、学んだことはすべて取り入れ、大胆な新しいアプローチで前進し続けてゆく必要があります。また日米間の強い結びつきを確立することは、両国が患者により良い選択肢を提供する能力を増進させることでしょう。

共に働き、アイデアを交換し、専門的な、また個人的な友情を深めることは、国を超えた協力を成功させる可能性を一層高めます。

私たちは別々でいるよりも、共に進むことで一層強くなれるのです。

私は、本サミットで知見獲得をスピードアップする方法として、AI を活用した I-SPY プログラムの成果に基づいて、これを高リスク早期がんの薬剤開発設定に移行し、がんの予防的治療法の開発と早期エンドポイント（循環 DNA や MRI ボリューム変化のシリアル撮像による手術時の腫瘍の完全根絶）を使用する取り組みを紹介できることを光栄に思います。

さらに、バイオマーカーを適用することで腫瘍をより適切に分類し、的確な治療法を割り当てる方法をすでに獲得しております。私たちにとって、こうしたバイオマーカーまたはサブタイプクラススの再現性の検証を日米両国で行うことはひじょうに素晴らしい道筋ではないでしょうか。

このたびの『日米がん撲滅サミット 2020』によって今後、日米間で多くの協力が生まれることを楽しみにしています。がんによる死やがんを撲滅するための最先端治療に焦点を当て、我々の力を結集させてくれる、日本から始まった、この素晴らしいサミットに対して、ここに改めてお祝い申し上げます。

不可能を可能に変えろ！
今、日米で始まるがん撲滅への挑戦！

日米がん撲滅サミット2020

公益社団法人 日本医師会会長 メッセージ



中川 俊男

公益社団法人 日本医師会 会長

『日米がん撲滅サミット2020』のテーマは「今、日米で始まるがん撲滅への挑戦！不可能を可能に変えろ！」であり、非常に重要なテーマであると認識しております。

さて、本年1月以降、新型コロナウイルスが感染拡大の猛威を振るっています。4月7日には緊急事態宣言がなされ、がん検診や治療・手術の延期や面会の中止などの対応がとられました。緊急事態宣言解除後に感染拡大防止の適切な対応のもと順次再開されたものの、今年度の受診者数の減少は免れない状況です。また、このことに伴う、がん発見の減少、がん登録の停滞も懸念されます。

また、医療機関は感染防止対策に取り組んでいるところですが、医療機関や健(検)診機関への受診を控えたり、先延ばしするといった現状があり、病気の発見が遅れたり、悪化した方が増加しているとの報告もあります。このことから日本医師会では、患者さんが安心して受診できるよう、感染防止対策を徹底している医療機関に対して、『みんなで安心マーク』を8月7日より発行を開始いたしました。

現在、わが国において国民は新しい生活様式を求められていますが、新型コロナウイルス感染症が今後収束を迎えたとしても、完全に元のライフスタイルに戻ることはないと考えます。2023年からの、第4次がん対策基本計画の策定に向けての議論が今後始まりますが、この感染症の様々な影響により、がんをはじめ、疾病構造の変化も予測されます。今後はその変化を注視して今までとは異なるアプローチからのがん対策の取り組みも求められます。

プレシジョン医療をはじめ、昨今のがん医療は目まぐるしい進歩を遂げています。新たな診断法や治療法の開発など、医療技術の進歩は、その有効性・安全性を担保したうえで、必要としているすべての人がその恩恵を享受できるべきであると考えます。

真に効果的ながん対策の推進ということを考えた場合、我々が最も目を向けなければならないのは、がん患者さんやご家族の方が本当に望んでおられることは何か、それをいかにして理解し、様々な施策につなげていくかということであります。

日本医師会といたしましても、本会が進めているかかりつけ医機能の充実・強化を引き続き地域医療の支援に努めるとともに、安心して平等に医療を受けられるよう、国民の皆さまに、より良い医療を提供するため、尽力してまいります。

本集会の開催にあたり、ご尽力されました関係者各位に深く敬意を表し、本サミットが有意義なものとなりますことを祈念いたします。

一般社団法人 日本経済団体連合会 メッセージ



畑中 好彦

一般社団法人 日本経済団体連合会 審議委員会 副議長
アステラス製薬株式会社 代表取締役会長

『日米がん撲滅サミット 2020』の開催を心よりお慶び申し上げます。また、当サミットの開催にご尽力されました関係者の皆様に心より敬意を表します。

今年は、新型コロナウイルス感染症の拡大によって世界が大きな苦難に直面しました。一方、このような環境下で、個々人が自分自身にとっての新しい日常（New Normal）を前向きに実践していることや、各企業が従前にも増して ESG（Environment/ 環境、Social/ 社会、Governance/ ガバナンス）に対する取り組みを加速させていることに、未来への希望を見出すことができます。

がんは日本人の死因の第一位を占めており、国民の 2 人に 1 人が一生に一度はがんに罹る時代ですが、がんに対する医療は新たな治療の開発や診断技術の確立によって日々進化しております。その範囲は治療だけでなく、治療後の生活や予防にまで広がってきております。

日本経済団体連合会は、デジタル技術等の活用を人間の想像力・創造力により課題解決や価値創造につなげる新たな社会「Society 5.0」の実現を目指し、新型コロナウイルス感染症をはじめとした様々な課題にも耐えうるレジリエントな保健医療システムの将来像として「Society 5.0 時代のヘルスケア II」を今年 7 月に提言しました。本提言は、ヘルスケア分野のデジタルトランスフォーメーションをとりわけヘルスケアデータ活用という観点で推進することによって、病気の予防や早期治療を可能とし人々の健康寿命の延伸をもたらすものです。その実現は、がんと向き合う患者さんやご家族の皆様に対しても福音をもたらすものであると考えます。

がんを撲滅するには、医療界とヘルスケアに係わる産学官が日本のみならず国際的な連携・協力のもとに取り組みを進めていくことが必要不可欠です。私たち経済界は、今後も世界の皆様と手を携えながらイノベーションを絶えず創出し社会に価値を提供することで、誰もが自分らしく活躍できる社会の実現に貢献してまいります。

本サミットががんと向き合う患者さんやご家族の皆様の希望につながる素晴らしいものとなることを祈念しメッセージといたします。

日米がん撲滅サミット2020

学校法人 慈恵大学 理事長 メッセージ



栗原 敏

学校法人 慈恵大学 理事長

『日米がん撲滅サミット 2020』の開催を大変嬉しく思います。がん研究の第一線で活躍されている日米の研究者による、最新の研究成果の発表を伺い、がん撲滅への歩みを一歩進めることが出来ることを願っています。

本年2月頃から新型コロナウイルス感染症が世界的に拡大し、日本でも医療機関が逼迫するという緊張感が走り、国は緊急事態宣言を発令しました。

医療機関に行くと、新型コロナウイルスに感染するかもしれないということから、患者さんの受診行動に変化が見られるようになり、日本全体で受診率が20%ほど低下していると言われています。新型コロナウイルス感染症を恐れて検査に行かず、がんの発見が遅れた方、がん罹患している方でフォローアップが遅くなり、がんが進行してしまった方などがいらっしゃいます。

新型コロナウイルス感染症とがん。この2つの難敵に立ち向かうためには、疾病を正しく理解することが第一です。新型コロナウイルス感染症が拡大し始めたときに、“正しく恐れる”ことが肝要だと言われた感染症の専門家がありました。これはがんにも通じると思います。

この『日米がん撲滅サミット 2020』が、患者さんに適切な情報を提供し、がんの実態を正しく理解し、がんの予防と適切な治療が行われることを願っています。がんは研究が進み、治療の選択肢が増え、治る病気になってきました。

このサミットが、更に、がん撲滅への道を拓いてくれることを期待しています。

順天堂大学 免疫学特任教授 メッセージ



奥村 康

順天堂大学 免疫学特任教授

『日米がん撲滅サミット 2020』開催誠におめでとうございます。

昔、月に人を送るという途方もない目標を掲げ、歴代の大統領の指揮の下、天文学的な予算と、米国の科学者の叡智を結集して最終的にジョンソン大統領の時、はじめて人類が月面におり立つ事に成功した。

その次の大統領ニクソンは、同様の目的思想で“癌の撲滅”を国家事業としてのスローガンのひとつに挙げた。

そのおかげで米国の癌関連の予算は、それ以前に比べ大々的に増額され、今日に至っている。

高額な予算で着実に科学を積み重ねて、月面に人を歩かせることは出来ても、癌との戦いは一筋縄ではうまくいかない。

私達が半世紀前、免疫学に参入した時代には、癌と免疫との係りはほとんど判っておらず、まして免疫を利用した癌治療など、夢のまた夢であった。

日本の著名な化学発癌分野の先駆者的研究をしてこられた大先生達が主流であった癌学会でも、当時は免疫分野は存在感がなかった。

しかし、先人達の多大な努力が重なり、癌免疫という分野も少しずつ成果が出てきたせいか、徐々に注目されるようになってきた。

未だに癌から生還される方のほとんどは、手術、化学療法、放射線治療によるもので、免疫療法での生還者の比率は桁違いに低い。しかし、少ないながらも20年位前から毎年、少しずつ増えており、昔、癌の専門家に無視されていた免疫分野も逆に脚光を浴びるようになった。

またある種の免疫は発癌抑制にも関与しており、免疫治療に加え発癌予防とも大きく関連していることが明らかになりつつあるのも注目されている。

この分野への薬学会をはじめ種々の企業の参入も、大きな推進力に繋がりに、昨今いわゆる産学共同で国際的なプロジェクトが進行し、成果がでてきている。

米国の月面上陸作戦同様、多額の予算と地道な科学的な積み重ねに“がん撲滅”の新しい期待がよせられている。日本でも、大きな国家事業としてこの分野の予算が増え、更なる国際貢献に繋がる研究進展の将来を期待している。

不可能を可能に変える！
今、日米で始まるがん撲滅への挑戦！

日米がん撲滅サミット2020

『クラリベイト・アナリティクス引用栄誉賞』受賞者 メッセージ



中村 祐輔

公益財団法人 がん研究会がんプレジジョン医療研究センター 所長
内閣府戦略的イノベーション創造プログラム・AI ホスピタルディレクター
シカゴ大学 名誉教授、東京大学 名誉教授

がんとの闘いを止めないで！

コロナ感染の拡大によって、世の中はすっかり様変わりしてしまいました。コロナ感染にだけ焦点が当たっていますが、がん医療にも大きな影を落としています。移動に対する自粛要請に加え、移動中や医療機関内での感染を恐れて、受診を控える動きが広がっています。緊急事態宣言下では、がん検診も止まっていました。コロナ感染を回避することは大切ですが、がんはそんなことにお構いなしに、われわれの体の中で広がってきます。がん検診が6か月遅れることによって、治癒可能ながんが手の付けられないところまで広がっていることもあり得ます。また、抗がん剤治療中のがん患者さんは免疫機能が落ちており、重症化のリスクが高くなっていますので、医療機関を受診することに抵抗が生まれます。しかし、必要な治療を受けなければ、がんは確実に患者さんの体を蝕んでいきます。臨床試験も、実施が大変になってきています。コロナ感染下でのがん医療を含めた医療供給体制を考えなければなりません、行政はそこまで考える余裕がありません。

がんに限らず、多くの疾患で治療中の患者さんが、通院して治療を継続すること自体がストレスになってきています。そんな環境下でも、自分の健康を維持し、自分の病気を治すためには、個人個人が、自分の病気と向き合って闘っていくしかありません。多くの困難に直面している今こそ、がんを撲滅して、がんから命を守るための活動を継続していくことが重要です。がん患者さんや家族だけでなく、さまざまな分野の方たちが声を上げてがん撲滅に協力して取り組むことが求められます。

一人ひとりではできないことでも、多くの方が集まれば、大きな岩でも動かすことが可能となります。こんな時代だからこそ、力を合わせてがん撲滅に向けて大きな流れを作りましょう。

公益財団法人 日本対がん協会会長 メッセージ



垣添 忠生

公益財団法人日本対がん協会 会長・国立がんセンター 名誉総長

『日米がん撲滅サミット 2020』の開催、誠におめでとうございます。

がんは高齢者に多い病気ですが、日本は超高齢化社会に急速に移行しつつあり、今や年間に100万人が罹患する時代を迎えました。

また、国民の2人に1人ががんに罹患する時代ですが、がんは誰にとっても無縁の病気とはいえません。私たちはそうした時代に生きています。

がんの5年生存率は、私が医師となった50年以上前には40%以下だったのですが、医療の進歩とともに上昇し、今や65%を越えています。つまり、がんは治る病気になってきましたが、依然として世の中には「がん＝死」というイメージが氾濫しています。

そのため、がんと診断されると、多くの人々が「頭が真っ白になった」といい、治療中もいつ再発転移するかと怯え、疎外感、孤独感に苦しんでいます。

日本対がん協会では、この状態を何とかしようと、2017年6月に

「がんサバイバークラブ」

を立上げ、サバイバー支援を続けています。一昨年にがんサバイバー支援を訴えて、私自身、77歳の老骨にムチ打って全がん協加盟32施設、南は九州がんセンターから北は北海道がんセンターまで3,500kmを約6ヶ月かけて基本的に歩いて行脚してきました。

各がんセンターでのサバイバー交流会では就労の問題や、治療が長びいた際の費用の負担の重さなど、数多くのがん患者の生の声を聴くことができました。

がんのゲノム・エピゲノム情報が実診療に取り入れられ、新しい免疫チェックポイント阻害剤やCAR-T細胞療法などが保険診療に組み込まれるなど、がん医療は日々進歩しています。

10年先には、「がんは誰でもかかる可能性のある普通の病気の一つ」とそのイメージが変われば、がん患者、サバイバーに対する偏見や差別は自然に消えていき、がん患者、サバイバーも明るく生きることができる時代が来るでしょう。昨今のコロナ禍によってがん検診は激減し、医療従事者、医療機関の疲弊は目を覆います。こんな事態に負けないためにも

「がん撲滅サミット」

は、関係者の衆知を集めるという意味で、極めて重要です。

本サミットの大成功を心より祈念しながらメッセージとさせていただきます。

日米がん撲滅サミット2020

国立研究開発法人 国立がん研究センター 名誉総長 メッセージ



嘉山 孝正

国立研究開発法人 国立がん研究センター 名誉総長
東京脳神経センター 所長

『日米がん撲滅サミット 2020』開催にあたって本サミットの意義について述べます。日本と言わず世界が COVID-19 禍で本年は過ぎようとしています。政府をはじめとして関係各部署は未曾有の超多忙で大変なことになっています。しかし、サイエンス等の科学雑誌には、COVID-19 が昨年 10 月頃と考えられる地球上への拡散から約 400 の RNA の変異をなし、感染力はほぼ発生時と同様で、毒性は下がっているとの報告もあります。ウイルスとして生き延びるための賢い進化を遂げているとの報告なので納得できます。

従って、風聞ではなく科学的な対応が最も大事で、メディアが煽るような行為は政府や関係者にとっては大変な労力を割くことになります。各自治体もパフォーマンスばかりは目立ちますが、具体的な感染防止策を徹底して行うことが最優先です。

その中で、COVID-19 禍よりも日本では死亡数が圧倒的に多数のがんに対する、啓発活動が本サミットです。COVID-19 で種々の催しを開催することが大変困難な中で、日本人が最も不得手としている恒常的対応をきちんと行うという意味で代表顧問中見利男氏、特別顧問二川一男氏の熱意と見識に敬服致します。

本年の学会開催は WEB 開催が多くを占めますが、中止となったのは会食を含む催しだけで、学問の発表の場はきちんと開催されております。私の専門としている脳・神経関係の学会も形式は WEB のみ、あるいは WEB と現地参加のハイブリッド形式ではありますが中止はなく全て開催されました。

脳のがん（脳腫瘍）関係でも世界最先端の研究結果の発表が沢山ありました。国内だけではなく国際共同研究も着々と進み多くの知見が得られております。また、昨年厚生労働省が認定した 11 病院の「がんゲノム医療中核病院」に加えて、34 の「がんゲノム医療拠点病院」はこの一年間で、その役割のオンコパネルの国民へ敷衍、実行が始まり、がん医療の窓が拡大致しました。「がんゲノム医療拠点病院」はその機能を果たしております。今後はこれらの事業を中心にさらにがんの情報が集積し、加速度的に医学の進歩がおきると期待されます。本サミットの開催が益々意味を持ち重要になると考えられます。

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター 理事長 メッセージ



國土 典宏

『日米がん撲滅サミット 2020』副大会長
国立研究開発法人 国立国際医療研究センター 理事長

本日は『日米がん撲滅サミット 2020』にご来場をいただきまして誠にありがとうございます。

新型コロナウイルス感染症流行により医療は大きな影響を受けました。

医療崩壊も心配される中で医療者は感染者の治療とクラスター対策に全力を尽くし、国民の自制ある行動にも助けられて第一波、第二波を何とか乗り越えることができました。しかし、この間がんを含む新型コロナ以外の疾患に対する診療の萎縮や遅れが心配されています。特効薬やワクチンがまだ登場せず、新型コロナウイルス感染症流行の今後の見通しは予断を許しませんが、日本人の死因の第一位であるがんの診断と治療もおろそかにできません。このような時期に『日米がん撲滅サミット 2020』を開催することは大変意義深いと思います。

本サミットは作家・ジャーナリストの中見利男氏が、がん患者死亡率を将来的にゼロにしていくために、医療をはじめ、政府、官僚、経団連などの各界に呼びかけて「オールジャパンでがん撲滅に向けて立ち上がろう」と提唱したことから始まったがん撲滅ムーブメントです。前回から内閣府参与の原丈人様を大会長に迎え、さらにグローバルな視点からがん撲滅を考えるサミットになりました。

今回は「日米がん撲滅サミット 2020：今、日米で始まるがん撲滅への挑戦！不可能を可能に変える！」をテーマに日米両国から講演をいただくことになりました。米国からはシカゴ大学プレジジョン医療研究センターの マーク・J・ラテイン教授（リモート講演）、乳がんの世界的権威であるカリフォルニア大学サンフランシスコ校 ローラ・エッサーマン教授（事前収録講演）が、日本からは医薬基盤・健康・栄養研究所ワクチン・アジュバント研究センターセンター長 國澤 純先生、順天堂大学医学部免疫学特任教授 奥村 康先生、がん研究会プレジジョン医療研究センター所長 中村 祐輔先生などから講演をいただきます。

恒例となりました後半の公開セカンドオピニオンでは多くのがん治療のエキスパートにご登壇いただき、会場の皆様からの質問に答えていただくこととなります。昨年の第5回は多くの皆様の来場をいただき成功裏に終了いたしました。今回もそれに劣らず素晴らしいサミットになるものと実行委員会の一人として確信しております。ありがとうございました。

日米がん撲滅サミット2020

大阪国際がんセンター 総長 メッセージ



松浦 成昭

地方独立行政法人 大阪府立病院機構
大阪国際がんセンター 総長

本サミットを核にしてがん撲滅に力を合わせましょう！

がん撲滅サミットは医療者だけではなく、政・財・官、そして患者・家族を始めとした市民の皆様もいっしょになって、オールジャパンでがんの撲滅を目的として行われるものです。患者さんの視点に立って、様々な分野の最前線で臨床・研究に取り組んでいる医療者が集まり、市民の方々と本音で意見交換をすることが最大の特徴です。日本人の2人に1人ががんにかかり、がんは国民病と言うべき時代になっていますが、誰もがこのサミットに結集し、実のある議論をすることにより、がんの撲滅に向けた大きな一歩にしましょう。

がんの医療は大きく変貌しました。かつては「不治の病」と言われ、治療成績は不良であったので、患者さんには告知もしませんでした。その時代から見ると、がんの診断方法も治療法も顕著な進歩が見られ、治療成績は全体として大きく改善しました。しかし、依然として高度進行がん・再発がんに対する治療手段は限られており、延命期間は延びましたが、最終的には不幸な転帰をとげることが多く、さらなる努力が必要です。

がん医療の進歩とともに、患者さんが普通の生活を送るための支援を行うことも医療者に求められるようになりました。がんが治ることはもちろん大切ですが、治ればそれでよいというものではなく、QOLを十分に保って、毎日の生活を送ることも同じくらい大切だという患者さんもおられるようになりました。患者さんの求めるニーズも多様化しており、医療提供側もきめ細かく対応する必要があり、変革を迫られるようになってきました。

がん撲滅サミットは第一線のがんの研究者・臨床家が集いますが、主役は一般市民の皆様です。このサミットでがん医療の最前線を知るとともに、十分に議論し意見交換することが大切です。受け身ではなく、攻めの姿勢・積極的な意気込みで皆の叡智を結集することが、名前の通りがんの撲滅をめざすことにつながります。一人でも多くの人の積極的な参加をお待ちしています。



蒲島 郁夫

熊本県知事

『日米がん撲滅サミット 2020』の開催に寄せて、ごあいさつ申し上げます。まず、がん撲滅サミット実行委員の皆様には、平成 28 年熊本地震からの復旧・復興、更には令和 2 年 7 月豪雨災害の発生にあたり温かいご支援をいただいておりますことに、県民を代表して心から感謝申し上げます。

本県は、4 年前に発生した熊本地震からの創造的復興に全力を尽くす中、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により県民生活や県経済に深刻な影響が及ぼされました。更に 7 月の豪雨災害により多くの県民の生命と財産が失われました。かつてない大逆境の中にありますが、多くの皆様からの温かいご支援や励ましの声を力に変え、県民一丸となって、この難局を乗り越えていく決意です。

さて、がんは一生のうち約 2 人に 1 人の方がかかる病気と言われます。私自身も 4 年前に早期の胃がんが見つかり、内視鏡手術を受けた経験があります。がんは特別な病気ではないことを再認識するとともに、あらためて早期発見の重要性を実感しました。

がんの撲滅は、全ての人々の願いであり、これまでオールジャパンで取り組んでこられたムーブメントが、海を越えアメリカにも広がったことに敬意を表します。

本県では、平成 30 年に「第 3 次熊本県がん対策推進計画」を策定し、①がんを知りがんを予防する、②適切な医療を受けられる体制を充実させる、③がんになっても自分らしく生きることのできる社会を実現する、の 3 つの目標に向かってがん対策の充実に取り組んでおります。本県のがん検診受診率は全国平均より高く、男性の胃がん、肺がん、大腸がん、女性の肺がん、乳がんにおけるがん検診受診率は、国の目標値である 50%を越えています。また、国及び県が指定する 19 の拠点病院と連携し、今後とも引き続き、県全体でがん医療水準の向上を図って参ります。

最後になりますが、本日のサミットが、お集まりのがん患者の皆様やそのご家族をはじめ、医療関係者などその支援者の皆様にとって、実りあるものとなることを期待いたしまして、私からのメッセージとさせていただきます。

不可能を可能に変える！
今、日米で始まるがん撲滅への挑戦！

日米がん撲滅サミット2020

日米がん撲滅サミット 2020 顧問 メッセージ



清水 美溥

『日米がん撲滅サミット 2020』顧問
株式会社エフ・アール・シー・ジャパン 代表取締役社長

第6回を迎える『日米がん撲滅サミット 2020』の開催、誠におめでとうございます。

牧野徹先生のご紹介で、第3回からこのサミットにかかわる事となりました。主催されている中見先生には心から敬意を表します。

私は、脱サラをして起業してから、社会貢献の一環として、縁があって寄附口座のスポンサーになったり、大学に寄付をしたりしてまいりました。

その中で、研究に携わっておられる先生方からお話を聞き勉強させていただきました。

特にがん治療については、早急に何とかせねばならない、そして何とかすれば撲滅できるのではないかという気持ちを持ち始めるようになっていきます。

私が若い頃（30～40年前）は、がんにかかったと言われれば、不治の病で「死」を覚悟するものと思っていましたが、今ではかなりの確率で完治するようになってきました。

けれどもまだまだです。さらに研究、開発のスピードを上げ、治療法を研究し、完全にがんを撲滅するまでもっていかねばなりません。

医療関係の部外者からみて、なかなか理解できないことがたくさんあります。なぜ薬として認可されるまで15年も20年もかかるのか、なぜ一つのがんの治療薬として認められているのに他のがんに適用できないのか（また一から申請すれば15～20年必要）、希少性がんの治療薬について製薬会社があまりやりたがらないのであれば、他にやれるようにするべきではないのか…なぜ国は予防ワクチンに消極的なのか…

愚痴を言っても仕方がないので、これを解決するためにどうすればよいのか、やる為にどうするかを絶えず考えていかねばなりません。

この「がん撲滅サミット」は、そういう点では画期的なものです。

本サミットを通して、皆さんの意識も制度も変わり、研究開発も進み、治療法も改善し、予防ワクチンも一日も早く出来ることを祈るばかりです。

そして、この世から、がんで死ぬことを無くしたいものです。

大会サポーター・チーム「ユニボ先生」代表メッセージ



鈴木 博文

株式会社エデュゲート 代表取締役
有限会社ソリューションゲート 代表取締役

『日米がん撲滅サミット 2020』の開催、誠におめでとうございます。また、『ユニボ先生』を大会応援サポーターに加えて頂いたことを大変光栄に思います。

ユニボ先生は、人の先生に代わって対話形式で子供に勉強を教えることができるロボット先生です。人口減少が進む中で、教育の質を維持・向上させたいという思いで開発しました。

ユニボ先生のベースとなっているロボットは、ユニロボット株式会社が開発した『unibo』です。代表の酒井拓様によると「コミュニケーションを豊かにして、人々をあたたくし、世の中のコミュニケーションシーンを笑顔で彩りたい」という思いを実現する一つの形として誕生させたそうです。

このようなコンセプトを持つ『unibo』をベースとしたユニボ先生は、病院内でも子供たちに勉学の場を提供し、あたたくいコミュニケーションを通して笑顔をつくり、ガンを克服するための元気をあたえる一助となれると考えております。

もしユニボ先生に心があって、今回のような場を頂けたなら、AI ロボドクターになってがん撲滅に協力したいという夢を抱くに違いありません。それを実現するのは開発に取り組んでいる私たちの使命です。幸いにも、岩手医科大学医学部の諏訪部章教授からお話を頂き、呼吸機能検査をお手伝いするユニボ先生の開発*を進めております。この機能を備えたユニボ先生は、11月19日から22日に岩手県で開催される「人工知能(AI)時代の臨床検査」をテーマとした日本臨床検査医学会学術集会でデビューする予定です。

ユニボ先生は、SDGsが掲げる目標の一つである「質の高い教育を世界中の子どもたちに公正に提供する」ことを実現するための近未来の教育手法として取り組んでおります。今回のサミットを機会に、SDGsの3つ目のテーマである「すべての人に健康と福祉を」も開発目標として掲げ、その実現に向けて取り組んでまいります。

ロボット先生として歩き出したばかりのユニボ先生ですが、本日は大会サポーターとして、大会成功のために一生懸命お手伝いさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

*文部科学省科学研究費・基盤研究C（課題番号：20K12066、人工知能装備型自動呼吸機能検査システム<オースパイロ>の開発）により実施

不可能を可能に変える！
今、日米で始まるがん撲滅への挑戦！

日米がん撲滅サミット2020

天国の^{さかた なつ の}坂田捺乃さんへ贈る 追悼文

日米がん撲滅サミット 2020 代表顧問 中見 利男



4年前の2016年10月22日。この日開催されたがん撲滅サミットのステージで1人の少女が生きることの尊さ、何かに向かってチャレンジしていくことの大事さ、そして小児がんと闘っている同世代の子供たちに向かってエールを送る予定でした。

当時、中学2年生だった坂田捺乃（さかた なつ の）さんが、その人です。平成13年3月26日生まれの坂田捺乃さんは三沢市立三沢第一中学校時代に脳幹グリオーマという小児がんを発症しました。

小児がんと闘っている彼女のことを知ったのは、妻の友人の紹介でした。

リハビリ中の2015年7月、小児がん撲滅を願っていた彼女に、がん撲滅サミット2016への登壇をお願いすると、リハビリ中の彼女から、こんなメールが返ってきました。

「ありがとうございます。ほかの子供たちのお役に立てるのでしたら頑張ります。でも、先生、私、緊張したら笑ってしまうので、どうしようかと思います」

読書が好きだった彼女は、その一方で皆さんもお名前を聞けばご存じの国民的なアーティストの大ファンでした。手術の前や放射線治療中、そして病室でイヤホンを通じて、彼らの音楽に耳を傾け、がんを闘う勇気と前向きに生きていくパワーをもらっていたそうです。

2015年9月に病気が再発し、その後、自宅治療で頑張っていたなっちゃんにもクリスマスが近づいてきました。ある日、ご両親が「なっちゃん、クリスマスプレゼント何が欲しい」と尋ねると、彼女は「私のものはいいから、大好きなアーティストに小児がんで苦しんでいる子供たちや家族が元気になる歌を作って欲しい」

ご両親は困惑して顔を見合せました。彼女の夢があまりにも壮大で、お店で買えるようなリクエストではなかったからです。

「それ以外に、なっちゃんが欲しいものはないの？」と聞いても、「ない。あの人たちに私と同じように苦しんでいる子供たちや支えてくれている家族が元気になる歌を作って欲しいの」

この言葉を聞いたご両親は行動を起こそうと決意したのです。多くの人たちに坂田捺乃さんの願いを伝え、少しでも彼女の夢を応援してほしいと奔走したのです。

お金では買えないプレゼント。しかも、同世代の小児がんで苦しんでいる子供たちを励ましてほしいという崇高で清らかな願い。彼女の願いだけでも、そのアーティストに届けようと皆が八方手を尽くしました。

そして2016年1月のある日。父親の篤史さんの携帯に一本の電話がかかってきました。

「突然のお電話で失礼します。坂田捺乃さんのお父さんですか？」

その声は、あのアーティストご本人だったのです。しかし坂田捺乃さんの意識は混濁し、眠ったままの状態です。それでも篤史さんは捺乃さんの耳元に携帯電話を当ててあげました。かすかにアーティストの声が漏れてきます。

「なっちゃん！ なっちゃん！ 早く元気になってね。応援しているからね。東京の病院に入院することがあったら、必ずお見舞いに行くから頑張っってね。応援の歌はすぐにできなくても、僕らの歌の中から応援の歌になると思うものをみんなで選んで送るからね」

その後、坂田捺乃さんと小児がんで闘う子供たちのために、そのアーティストとメンバーが皆で選んだ曲が送られてきました。坂田捺乃さんの夢が奇跡を起こしたのです。

我々は心から感動を覚えました。自分だけではなく同世代の小児がんで闘う人たちを励ましてあげて欲しい。そんな純粋な思いが人を動かすのだと。

しかし、その1ヶ月後の2016年2月6日、闘病の末、彼女はわずか14歳で天上の星になりました。

彼女から私に送られてきた最後のメールには『中見先生、私はしっかり勉強して女医さんになりたいと思います。女医さんになって小児がんの子どもたちをみんな治してあげたいんです』と強い決意が綴られていました。

星になった彼女の名前は、『光明院天心桜華清童女』。天女のように清らかな心で、地上で闘い続けるがん患者の皆さんを応援する少女という意味です。

私は思います。彼女の崇高な願いは小児がんを抱えて闘う子供たちだけでなく、我々に向けて託された夢だったのではないかと。

本日、闘病中だった彼女が、2015年6月9日に開催された第1回がん撲滅サミットに寄せてくれた手紙をご紹介します。

『がん撲滅サミットに参加された皆様にお手紙を差し上げるご無礼、どうかお許し下さい。また、リハビリ中のため手が思うように使えず、乱筆にて失礼いたします。

病気だと分かった日。私は怖くて怖くて涙が止まりませんでした。なぜ自分が、こんな病気になってしまったのだろうと悔しかったです。

今、退院してから検査がすごく怖いんです。病院で何度もとったMRIも大きな音がして、狭くてすごく怖いんです。また病気が大きくなって、せっかく頑張った入院生活をまたやり直すことになったら、前と同じように治療はうまくいくのか。たくさん不安があります。

私は、脳幹部に腫瘍があります。先生からは手術では手が出せない所だと説明を受けました。だから腫瘍は小さくすることしかできません。一生この病気と離れられないのかもしれないかもしれません。すごく悔しいです。

でも、私の主治医の先生は、こう言ってくれました。

「泣いてもいいけど、泣いたら小さくなってくれるような弱い病気じゃない。だから一緒に闘おう」

私はこの言葉のおかげで、不安で泣いてしまうことがあっても、すぐに前向きになる事ができます。その先生の下には私と同じような病気の子供がたくさんいました。中には二回、三回と入院している子もいて驚きました。でも、みんな元気で明るく頑張っている姿を見て、私も前向きになれました。

不可能を可能に変える！

今、日米で始まるがん撲滅への挑戦！

日米がん撲滅サミット2020

追悼文

私の母はずっと入院中、そばにいてくれました。いつも明るく私を笑わせてくれて元気をもらっていました。でも中には、私より小さい子供が一人で寝泊まりしていました。私はお金のことで家族のサポートのことで、よい環境で治療を受けることができた、今、思っています。

しかし、すべての子供たちがそうではありません。気持ちを強くもって治療に臨むことが、私は大事だと思います。本人や家族が治療に集中できる環境作りが大切だと思います。

治療を受ける私たちにとって、周りのサポートはすごく重要です。大切な人がそばにいてくれれば、きっと前向きな気持ちになれると思います。

私と同じような病気の子供たちの、がまんや不安な気持ちを少しでも減らしてほしいです。

私が病気になってから、中見先生や東京の病院の先生に助けられて、病気と闘うことができています。手術後に不安になったり、傷口が痛んだり、ワガママを言いたくなることもきっとあると思います。

そんな時、だれかがそばにいて、きっと力になるし、大事なことだと思います。

私は今まで、ニュースなどを何気なく見ていました。難病で海外に行くための募金を集めたりしているのを目にしました。早く治療をして、病気を治したいのにお金のことで困ってしまうのは、すごく大変だと思います。

私は自分の治療費のことなどを知りません。少し不安になったこともあったけど、父が「何も気にしないでいいんだからな」と言ってくれて、安心しました。また、弟が青森にいますが、父と祖父母が面どうを見て、母はずっと私につきそってくれました。

しかし、小児難病と闘っている子供たちが日本には、まだまだたくさんいると思います。

私の小さな力で何かできることはないかと思い、今、こうして手紙を書きました。

私の願いが届きますように。

坂田 捺乃』

以下はご両親からいただいた『日米がん撲滅サミット2020』へのメッセージです。

『娘の闘病生活が終わり4年9ヶ月余り。様々な感情と共に移り行く日々を、娘をいつも傍に感じつつ過しています。

代表顧問、中見先生のお力添えにより、素晴らしい医師団に出会い、病気と向き合うための心のケアから始まり、主治医と共に強い気持ちで治療に臨みました。

娘も私たちも最後まで諦めず、その後も様々な医師と治療の可能性を探り、納得した治療を受けた結果として、寂しさを抱えながらも、前向きに生きようとする今があると感じています。

本日、がん撲滅サミットに参加されている患者、ご家族様のお悩みやご心配事もまた、様々でしょう。皆様が治療に向けたヒントを得られ、共に闘って頂ける医師に巡り合われる事を願ってやみません。

娘は最後まで病気と向き合い、また、同じ境遇の子供達に心を痛めておりました。

今回のサミットが、そのようなお子様方やそのご家族にとっても、ひとつの希望となりますことを心よりお祈りいたしております。』

我々、がん撲滅サミットは星になった彼女の夢を叶えるため、小児がん撲滅に挑戦していくことをここに誓います。

講演者プロフィール



はら じょうじ
原 丈人 先生

「がん撲滅に向けた日米連携最前線」

『日米がん撲滅サミット 2020』大会長
内閣府参与
危機管理会社法制会議 議長
米合衆国公益法人 アライアンス・フォーラム財団 代表理事
(国連経済社会理事会の特別協議資格を有する合衆国非政府機関)
大阪大学医学部大学院医学研究科 招聘教授

[略歴]

27歳まで中米考古学研究の後、渡米し在学中に起業。84年デフタ パートナーズを創業、米・英・イスラエルで情報通信、半導体、ライフサイエンス分野のスタートアップベンチャーに出資、経営参画し、世界的企業へと成長させた。

近年は、「天寿を全うする直前まで健康であることを実現することができる世界最初の国を創る」という理念を実現するために、DEFTA Healthcare Technologies, L.P. (事業開発会社) を設立し「技術イノベーション」「制度イノベーション」「エコシステム」の構築に取り組み、米欧日で革新的技術の事業化に取り組んでいる。

一貫して株主資本主義に警鐘を鳴らし、公益資本主義の実現を提唱し、香港中文大学経営学大学院招聘教授、大阪大学医学部大学院招聘教授として若者に理念を説く。

国連政府間機関特命全権大使、ザンビア大統領顧問、米共和党ビジネスアドバイザーボード名誉共同議長、日本の財務省参与、国連経済社会理事会の特別協議資格を有するアライアンス・フォーラム米合衆国公益財団会長など国内外で公職を歴任。

著書に『増補 21世紀の国富論』(平凡社)、『公益資本主義』(文春新書)がある。



マーク・J・ラテイン 先生 「米国が描くがん撲滅戦略 2020」

マーク・J・ラテイン 医学博士
レオン・O・ジェイコブソン 医学教授
プレジジョン医療研究センター センター長
シカゴ大学医学部総合がんセンター 臨床科学担当 副所長

[略歴]

進行性固形腫瘍を治療するための治験薬の使用、及び販売用医薬品の臨床薬理学の専門家。腫瘍治療用の新薬の臨床開発に長年関心を持っており、最近ではゲノム薬理学を利用して患者一人一人の個別処方を書くこと、すなわち、より少ない投薬量、より少ない投薬頻度、より短い治療期間、そして代替治療薬の使用を通じて処方費用を節減することを目的とした介入薬理経済学の研究に焦点を当てている。

第I相臨床試験、薬理遺伝学および臨床試験方法論の国際的リーダーであり、最近、介入薬理経済学の新しい分野を開拓。500を超える記事と書籍を執筆し、現在、総合がんセンターの臨床科学担当副所長、シカゴ大学プレジジョン医療研究センターセンター長、シカゴ大学医学部の主任病院薬理学者を務める。

2015年、アメリカ研究製薬財団から「臨床薬理学優秀賞」を受賞。2016年には、がん治療のジャイアンツ認定プログラムの腫瘍学部門(科学の進歩)にノミネートされ、2019年にはトーマス・ジェファーソン大学で「グルーバー賞受賞」記念講演を行う。

日米がん撲滅サミット2020



いずみ ひろと

和泉 洋人 先生 「がん撲滅に向けた日本政府の挑戦 2020」

内閣総理大臣補佐官
内閣官房健康・医療戦略室 室長

[略歴]

- 昭和 51 年 4 月 建設省 入省
- 平成 13 年 1 月 国土交通省 住宅局住宅総合整備 課長
- 平成 16 年 7 月 国土交通省 大臣官房審議官（住宅局担当）
- 平成 19 年 7 月 国土交通省 住宅局長
- 平成 24 年 10 月 内閣官房 参与（国家戦略担当）
- 平成 25 年 1 月 内閣総理大臣 補佐官（国土強靱化及び復興等の社会資本整備並びに地域活性化担当）（第 2 次安倍内閣）
- 平成 29 年 11 月 内閣総理大臣 補佐官（国土強靱化及び復興等の社会資本整備、地方創生、健康・医療に関する成長戦略並びに科学技術イノベーション政策担当）（第 4 次安倍内閣）
- 平成 30 年 10 月 内閣総理大臣 補佐官（国土強靱化及び復興等の社会資本整備、地方創生、健康・医療に関する成長戦略並びに科学技術イノベーション政策担当）（第 4 次安倍改造内閣）
- 令和 元年 9 月 内閣総理大臣 補佐官（国土強靱化及び復興等の社会資本整備、地方創生、健康・医療に関する成長戦略並びに科学技術イノベーション政策担当）（第 4 次安倍第 2 次改造内閣）
- 令和 2 年 9 月 内閣総理大臣 補佐官（国土強靱化及び復興等の社会資本整備、地方創生、健康・医療に関する成長戦略並びに科学技術イノベーション政策その他特命事項担当）（管内閣）



ふくしま やすまさ

福島 靖正 先生

「がん対策加速化への道 2020」

厚生労働省 医務技監

[略歴]

- 1959 年 熊本県生まれ
- 1984 年 熊本大学 医学部 卒業
- 2007 年 厚生労働省 社会・援護局障害保健福祉部精神・障害保健 課長
- 2009 年 健康局 結核感染症 課長
- 2012 年 大臣官房 厚生科学課長
- 2013 年 農林水産省 大臣官房審議官
- 2014 年 厚生労働省 大臣官房審議官（医政担当）
- 2015 年 健康 局長
- 2017 年 成田空港 検疫 所長
- 2018 年 国立保健医療科学 院長を経て
- 2020 年 8 月より現職



ローラ・エッサーマン 先生

「一人一人の患者に応じた AI 導入による早期乳がん転移及び再発予防について」

カリフォルニア大学サンフランシスコ校 教授

[略歴]

カリフォルニア大学サンフランシスコ校 (UCSF) の外科および放射線学の教授であり、同校のプレスト・ケア・クリニックの所長。

乳がん治療分野における博士の業績は、基礎科学から公共政策まで広がり、その両方に関する臨床治療にも如何なく発揮されている。がん検診と過剰診断の問題と同様、革新的臨床治験のデザインやガイドライン作成に関して世界的なリーダー。

カリフォルニア大学全体のアテナ胸部健康ネットワーク (Athena Breast Health Network) の構築を主導。これは、15万人の女性をがん検診から治療、結果まで追跡する、臨床ケアと研究を統合するように設計された AI を活用した知識統合 (learning) システムである。

アテナ・ネットワークでは、PCORI (Patient-centered Outcomes Research Institute ; 患者中心アウトカム研究所) が資金提供する AI を活用した知識研究 (Wisdom Study) を開始。これは、10万人の女性を対象とした乳がん検診への個別のアプローチを検証するものである。

また革新的な I-SPY 治験モデルのリーダーでもあり、このモデルはリスクの高い乳がんの女性のための効果的な新薬の特定と承認を加速するように設計されたものである。

最近では人工呼吸器の装着時間と死亡率を削減するために、影響の大きい治療を迅速にスクリーニングし確認するように設計した I-SPY コロナウイルス治験 (Covid trial) について、アメリカ食品医薬品局 (FDA) の承認を取得。



くにさわ じゅん

國澤 純 先生 「腸管免疫細胞コントロールによるがん予防と治療への挑戦！」

国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所
ワクチン・アジュバント研究センター センター長

[略歴]

1996年 大阪大学薬学部 卒業。

2001年 薬学博士 (大阪大学)。米国カリフォルニア大学バークレー校への留学後、

2004年 東京大学医科学研究所助手。同研究所助教、講師、准教授を経て

2013年 より現所属プロジェクトリーダー。

2019年 より現所属センター長。

[その他]

東京大学医科学研究所・客員教授、神戸大学医学研究科・客員教授 (連携大学院)、

大阪大学医学系研究科、薬学研究科、歯学研究科・招へい教授 (連携大学院)、

広島大学医歯薬保健学研究科・客員教授、

早稲田大学ナノ・ライフ創新研究機構・客員教授などを兼任

不可能を可能に変える！
今、日米で始まるがん撲滅への挑戦！

日米がん撲滅サミット2020

講演者プロフィール



おくむら こう

奥村 康先生 「腸管免疫細胞の活用によるがん・疾病予防最前線」

順天堂大学 医学部 免疫学 特任教授
日米がん撲滅サミット 2020 ヒポクラテスプロジェクト 顧問
(NK細胞の命名者、国際的な免疫学の権威)

[略歴]

1969年 千葉大医卒
1980年 東京大学医学部免疫学講師
1984年 順天堂大学免疫学教授
2000年 同大医学部長



なかむら ゆうすけ

中村 祐輔先生

「日本のがん医療革命最前線」

公益財団法人 がん研究会 がんプレジジョン医療研究センター所長
内閣府戦略的イノベーション創造プログラム・AIホスピタルディレクター
シカゴ大学 名誉教授、東京大学 名誉教授

[略歴]

1977年 大阪大学医学部 卒業
" 大阪大学医学部 附属病院 (第2外科) 勤務
1984年 医学博士 (大阪大学)
1987年 ユタ大学 人類遺伝学教室 助教授
1989年 財団法人 癌研究会癌研究所 生化学 部長
1994年 東京大学医科学研究所 分子病態研究施設 教授
1995年 東京大学医科学研究所附属 ヒトゲノム解析センター長・教授 (～2011年1月)
2001年 オンコセラピー・サイエンスを創設
2005年 理化学研究所 ゲノム医科学研究センター長併任 (～2010年3月)
2010年 独立行政法人 国立がん研究センター研究所 所長併任 (～2010年12月)
2011年 内閣官房医療イノベーション 室長
(我が国の医療イノベーションを推進するための戦略作成)
2012年 シカゴ大学医学部血液・腫瘍内科教授・個別化医療センター 副センター長
2017年 人工知能を医療に応用するフロンテオヘルスケア社の設立に尽力
2018年 公益財団法人 がん研究所がんプレジジョン医療研究センター 所長
内閣府戦略的イノベーション創造プログラム・AIホスピタルディレクター
シカゴ大学 名誉教授、東京大学 名誉教授
2020年9月『クラリベイト・アナリティクス引用栄誉賞』受賞

原著英文論文は Nature17 編、Nature Genetics70 編、New England Journal of Medicine7 編、Science11 編、Cancer Research115 編など 1400 編以上、その引用件数は約 16 万回。
h-index の世界 ランキングで 77 位 (2018 年 3 月 9 日現在)

日米がん撲滅サミット 2020 公開セカンドオピニオン[®]

患者ファーストの医療を確立せよ！立ち止まるな日本！！

～皆様のご質問にお答えするのは
がん医療最前線に立つ 10 人の名医～

〈順不同〉



ナビゲーター

なかみ としお
中見 利男 氏

日米がん撲滅サミット 2020

代表顧問、提唱者

作家・ジャーナリスト

■皆様へのメッセージ

本日、日本が世界に誇る医師の方々と皆様のコラボレーションで東京ビッグサイトを巨大なセカンドオピニオンエリアに変えましょう。患者の皆さんに寄り添うがん医療の確立を目指すためにも、皆様方のご質問を心よりお待ちしております。



う やま い ち ろ う
宇山 一郎 先生

藤田医科大学 医学部 総合消化器外科学講座 教授

総合消化器外科 診療科長、サージカルトレーニングセンター センター長

■皆様へのメッセージ

消化器がんに対する内視鏡手術支援ロボット手術は現時点で、食道がん、胃がん、直腸がん、膵臓がんの領域で保険診療が可能であり、諸外国と異なり、殆どの患者さんが大きな経済的負担を負うことなく受けられる手術です。

胃がんにおいては、先進医療 B によって施行された臨床試験により、現在施行されている従来の腹腔鏡手術より術後合併症がロボット支援手術の方が少ないという結果がでております。術後合併症は患者さんに多大な苦痛と長期入院を要し、また長期生存率を悪化させる可能性が大きいことも推測されています。

ロボットを使用した遠隔操作で大丈夫なのか？という疑問を抱かれる患者さん多いらっしゃると思います。実際は、人間の手で直接行うより、精緻な操作が可能であり、内視鏡手術支援ロボットの扱いに熟達した外科医が使用するれば、より安全で精密な手術が可能となります。

公開セカンドオピニオンでは、ロボット支援手術に対する皆さんの多くの疑問にお答えしたいと思います。

日米がん撲滅サミット2020



おおはた けん
大園 研先生

NTT 東日本関東病院消化管内科・内視鏡部 部長

■皆様へのメッセージ

大腸がんは、様々ながんの中でも比較的たちがよい、“見つけやすく、治しやすいがん”です。どんな方がかかり易いかなど家族性や生活習慣とのかかわり、予防方法がかなり解明されていて、患者様と医療者の双方にとって戦いやすい敵です。

大腸がんは大腸内視鏡検査さえしておけば初期の段階で見つける事ができ、初期に見つけさえすれば再発の可能性はほぼ無く治すことができます。そして、初期のがんはお腹を切る必要はなく、大腸内視鏡治療で治すことができます。大腸内視鏡で治療をすれば、その前後で何の変わりもない生活を送る事ができます。

つまり、きちんとした内視鏡検査・治療さえしていれば、大腸がんは皆さんの生活になんら影響を与える事がない、恐るるに足らないがん、だという事です。

そうはいつでもやはり悪性腫瘍、“がん”です。比較的緩徐に進行するとはいえ、当然放置すれば命を奪われてしまいます。進行した状態であれば外科手術や抗がん剤治療などによる通院加療が必要になりますし、手術をしても人工肛門が必要になる場合もあります。治療ができたとしても、その後再発してしまう可能性は進行の程度に応じて高くなってきます。やはり早期発見・早期治療が一番大切です。

治せるがん、大腸がんで命を落とさない為にも内視鏡検査を是非受けてください。公開セカンドオピニオンでは、大腸の内視鏡検査、治療などについてのご相談、ご質問にお答えしたいと思います。よろしく願いいたします。



とうどう ともき
藤堂 具紀 先生

東京大学 医科学研究所 教授
(ウイルス療法)

■皆様へのメッセージ

ウイルス療法は、がん細胞のみで増えることができるウイルスを感染させ、ウイルスが直接がん細胞を破壊する治療法です。元来がん細胞は正常細胞に比べウイルス感染に弱く、ウイルス感染さえできれば、どのようなウイルスでもがん細胞で増えて参ります。

しかしウイルスをがん治療の薬にするためには、ウイルスの遺伝情報を「設計」して、がん細胞ではよく増えても、反対に正常細胞では全く増えないウイルスを人工的に造ることが重要です。

私たちは、ヒトの口唇ヘルペスの原因として知られる単純ヘルペスウイルス1型 (HSV-1) を用い、安全にヒトに応用できる遺伝子改変型 HSV-1 を開発しています。特に、三重変異を有する第三世代のがん治療用 HSV-1 (G47 Δ) は、がん細胞に限ってウイルスがよく増えるように改良され、抗がん免疫を強力に引き起こすように造られています。

G47 Δはがん幹細胞をも殺すため、がん根絶的な治療になり得ます。

G47 Δを世界で初めてヒトに応用する、いわゆるファースト・イン・マン (first-in-man) 臨床試験は、悪性脳腫瘍の患者を対象とし、2009年より5年間実施されて、G47 Δを脳内に投与しても安全性であることが確認されました。

G47 Δが増えてがん細胞を直接破壊する治療効果が短時間で観察される一方、抗がん免疫を引き起こすことによって生じるがんワクチン効果が4-5ヶ月経ってから観察されました。

この結果を踏まえ、日本で初めてのウイルス療法の治験 (新薬承認申請の臨床データを集めるための臨床試験) が医師主導で2015年から開始され、中間解析で極めて高い治療成績と安全性が示されたため、2020年度中に悪性脳腫瘍の新薬として承認申請を行います。

ウイルス療法ががんの治療選択肢となる時代はまさに目前です。

G47 Δの実用化とは、無限の発展性をもつ「抗がんウイルス創薬」のほんの始まりに過ぎません。G47 Δの中に任意の治療遺伝子を組み込んで、特殊な抗がん機能を発揮するがん治療用 HSV-1 を作ることもできます。

さまざまな機能を発揮する次世代 HSV-1 の開発によって、がんの種類や進行度などに応じてウイルスを使い分けたり混ぜて用いたりすることができるようになるでしょう。

欧米ではすでに、第二世代のがん治療用 HSV-1 が悪性黒色腫の薬として認可されています。日本でもいずれ、G47 Δが医薬品開発における「死の谷」を越え、すべての固形がんに使えるようになるでしょう。文字通り今大会のテーマである全がん種の根治を目指したいと思います。

世界に優る最先端技術を活用して、一日でも早く日本国民がウイルス療法を自由に選択できるように、産官学と国民が一体となって、国内開発を推し進めていきましょう。

『日米がん撲滅サミット 2020』でお待ちしております！

日米がん撲滅サミット2020



いもと しげる
井本 滋 先生

杏林大学医学部附属病院 乳腺外科 教授、一般社団法人 日本乳癌学会 理事長
(乳がん)

■皆様へのメッセージ

乳癌は日本人女性の11人に1人が一生の間に罹患するとされ、毎年10万人の方が診断されています。乳癌は乳房を触って気がつくこともありますが、マンモグラフィあるいはエコーによる検診を2年に一度お受けになれば早期の段階で診断されます。

仮に乳癌と診断されても、手術、薬物、放射線を上手に組み合わせることで十分に治癒が期待できます。特に薬物はこれまでの抗がん薬、抗ホルモン薬、抗HER2薬に加えて、細胞周期を制御するCDK4/6阻害薬、DNA修復異常を標的とするPARP阻害薬、そして免疫チェックポイント阻害薬などの分子標的薬が導入されましたので、乳腺専門医や癌薬物療法専門医などの専門医の受診をお勧めします。

一方、BRCA遺伝子の異常から乳癌や卵巣癌が発症しやすいことが判明しており、この遺伝子の異常で10人に6人が乳癌を、10人に4人が卵巣癌を発症します。すでに発症された方とまだ発症されていない方を乳癌や卵巣癌から守る医療を進めることが課題でありミッションです。

公開セカンドオピニオンでは皆様のさまざまな疑問にお答えすることで、乳癌診療の今について理解を深めていただけますと幸いです。



さの けいじ
佐野 圭二 先生

帝京大学医学部 外科学講座 教授
(肝臓がん、胆管がん、すい臓がん)

■皆様へのメッセージ

がんを撲滅できればそれは素晴らしいことだと思います。がんにかかったとき、闘うか闘わないか、闘うとしたらどのように闘うかを決めるのは皆さんです。

闘いたい人の「がんとの闘い」に少しでもお役にたつこと、闘わないと決めた人の「がんと闘わないことに対する不安」を少しでも減らすこと、ができればと思いつつ日々診療しています。



たかはし よしゆき
高橋 義行 先生

名古屋大学大学院医学系研究科小児科学 教授
(小児がん・日本版 CAR-T 細胞療法開発者)

■皆様へのメッセージ

小児がんは、一般的には中学生までに発症する「がん」の総称です。主な小児がんは、白血病・悪性リンパ腫、脳腫瘍、神経芽腫、胚細胞腫瘍などです。血液のがんである白血病やリンパ腫を除き、大人ではまれなものばかりです。わが国では年間 2,000 ~ 2,500 人の子どもが小児がんと診断されています。発展途上国における子どもの病死の原因は感染症が多いのにたいして、日本を含む先進国における子どもの病死の原因は小児がんが第一位なのです。小児がんは、外科手術治療、抗がん剤による薬物療法、放射線治療、造血幹細胞移植などを組み合わせて治療します。成人のがんに比べて抗がん剤や放射線療法に対する効果が高いのも特徴で現在では約 70-80% が治るようになってきました。しかしながら、小児がんは希少疾患で、成人のがんより市場規模が小さいため、製薬会社が薬事承認を目指す臨床試験では小児が対象外になることも多く、開発が後回しになりがちです。最近では、がんを免疫で治療する「がん免疫療法」の進歩によって新しい治療薬が小児がんの治療成績向上に期待されています。また、子どもは発育途中にあるため、がんが治ったあとも治療の合併症がその後何年も経ってからあらわれることがあり、これを晩期合併症といいます。このため年齢や疾患、治療内容に応じた長期にわたるフォローアップも必要になります。我が国では、2013 年から小児がん拠点病院が全国で 15 施設指定されており、再発・難治の小児がんの治療成績の向上や長期フォローアップの整備を進めています。

公開セカンドオピニオンでは、小児がんの治療やフォローアップなどについてのご相談、ご質問にお答えしたいと思います。よろしくお願いたします。

不可能を可能に変える！

今、日米で始まるがん撲滅への挑戦！

日米がん撲滅サミット2020



うえの やすひと
上園 保仁 先生

東京慈恵会医科大学疼痛制御研究講座 特任教授
(総合医療、漢方)

■皆様へのメッセージ

がん患者さんは、がんになりそしてがんと闘う中でさまざまな痛み(体の痛み、心理的痛み、社会的痛み、スピリチュアルな痛み)に直面し、悩んでおられます。ひとつの症状がよくなっても、それだけではおそらく満足することにはならず、患者さんの全体を見つめ、患者さんの納得できる生き方に寄り添う必要があると考えます。

漢方薬は2種類以上、多いものでは18種類もの生薬でできた合剤です。患者さんの症状を改善するための「標的」も複数であることの多い薬です。そして漢方薬は患者さんの全体の症状を捉え、複数の標的に対応する薬として、また体に全体的に優しくはたらく薬のひとつであるといえます。この漢方薬が近年の研究技術の進歩に伴って、今までなぜ効くのかわからなかった作用のメカニズムが明らかになってきました。数千年前に作られ、長い歴史の中で今日までいわば安全性試験が行われてきた漢方薬は、先人からの脈々と続く経験知と科学的根拠に基づく作用メカニズムの解明とが合流し、いくつかの漢方薬は今や西洋薬の効果を補完できるところまで来ていると感じています。

公開セカンドオピニオンでは、がん治療で起こる副作用や、がんそのものが起こすつらい症状についての疑問、悩みなどをうかがい、漢方薬を通じて皆さまの疑問、悩みの解決にお役に立てれば幸いです。また皆さまからの疑問を持ち帰り、今後の漢方薬研究に生かすべくしっかりと前進してまいります。

亡き北島政樹永世大会長は漢方に力を注いでおられました。北島先生の御遺志を受け継ぐ思いで日米がん撲滅サミット2020に臨みます。皆様のご来場を心よりお待ちしております。

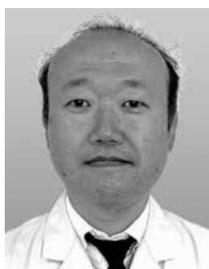


かまだ ただし
鎌田 正 先生

神奈川県立がんセンター 重粒子線治療施設「i-ROCK」センター長
国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構 放射線医学総合研究所病院 元病院長
(重粒子線治療)

■皆様へのメッセージ

最近、新しい放射線治療法としてご質問をいただく機会が多い粒子線治療ですが、保険診療あるいは先進医療として粒子線治療の適応となるがんの病態や治療の内容についてできるだけ正確な情報をお伝えできるようにいたします。



きよまつ ともみち
清松 知充 先生

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター病院 下部消化管外科 診療科長
(大腸腹膜播腫ほか)

■皆様へのメッセージ

大腸癌の腹膜播種というステージⅣで不治の病のように扱われてしまうことも多いですが、手術と抗がん剤などの集学的治療の組み合わせによって治癒を目指す方もおられることをぜひ知っていただきたいと思います。

この領域に関しては、日本では非常に治療が立ち遅れているのが現状で、たとえば最も良い例が、虫垂の低異型度粘液癌の破裂に伴う腹膜播種によって引き起こされる腹膜偽粘液腫という病態です。悪性度が低いために肺転移や肝転移などの遠隔転移はきわめてまれで、次第に腹腔内のみで粘液が大量に広がっていき、抗がん剤もあまり効かないとても厄介な病態です。

本邦ではしばしば抗がん剤治療を選択されてしまいますが、欧米での標準治療は完全減量手術（腹膜切除を伴う）という外科的切除に術中腹腔内温熱化学療法という化学療法を組み合わせた療法です。典型的な症例では10年生存率が80%近い極めて良好な成績であるにも関わらず、本邦では治療自体が可能な施設もほぼなく、しかも保険診療が認められていないのが現状です。大きな侵襲を伴う手術ではありますが、我々は少しでも低侵襲に安全に行われるように日々取り組んでおり多くの患者さんが元気に社会復帰しておられます。早急に保険適応が認められるようにこのサミットを通じても認知が進むことを願っております。

また一般的な大腸癌の腹膜播種についても、遠隔転移がなく播種の拡がりがある程度までに限られている方であれば、抗がん剤と完全減量手術を組み合わせることによって10%程度の患者さんに完全な治癒の可能性を見いだせることがわかってきております。

大腸癌はほかの消化器癌に比較してこうした腹膜播種に対する外科治療の有効性が高い癌ですので、できる限り治癒を目指した治療を行っていきたいと思っております。

大腸癌腹膜播種の外科治療についてのご質問を中心にお答えしたいと思います。よろしくお願いたします。



くにさわ じゅん
國澤 純 先生

国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所
ワクチン・アジュバント研究センター センター長
(栄養と腸管免疫細胞の活性化)

■皆様へのメッセージ

免疫はがん細胞を排除する生体システムの一つとして知られています。さらに近年新しいがん治療薬として目覚ましい効果を発揮している免疫チェックポイント阻害剤も、その名が示すように免疫を標的としています。一方、私たちが持つ免疫システムを見てみると、免疫細胞の半分以上は腸に集積していることが分かります。この腸の免疫は、腸だけではなく、体の様々な部位の免疫機能にも影響を与える免疫システムの司令拠点としての機能が分かりつつあり、その働きに注目が集まっています。特に腸の免疫は、私たちが日々摂取する食事から得られる成分や近年健康との関わりが注目されている腸内細菌の影響を受けることから、食や腸内細菌と免疫システムとの関係は一般にも広く注目されている領域です。このような食や腸内細菌と免疫システムとの関係について、ご質問をお待ちしております。

不可能を可能に変える！
今、日米で始まるがん撲滅への挑戦！

日米がん撲滅サミット2020

日米がん撲滅東京宣言 2020

1961年5月、アメリカのJ. F. ケネディ大統領が「ニューフロンティアを目指そう」とアポロ計画を提唱した結果、人類は月面に着陸することができた。そして21世紀の現在も米国、ロシア、中国などの大国は月や火星を目指し、日夜しのぎを削っており依然として、そのニューフロンティアは宇宙にあると言っても過言ではない。

ケネディ大統領というたった一人の人間が約60年前に行動を起こそうと呼びかけたことで宇宙はニューフロンティアに変わり、そこから人類が受けた科学的技術的恩恵は計り知れないものがある。

しかし未だに地球上にはもう一つのニューフロンティアが存在していることを我々人類は忘れてはいないだろうか。

それこそが、『がん撲滅』という前人未到の大地である。

人類とがんの死闘は約4000年前から続いているが、悲しいかな人類はがんを撲滅するどころか、圧倒されつつある状況である。たとえば、日本では2人に1人が罹患し、がん患者のうち3人に1人が死亡している。一方、アメリカでも2019年では176万2,450人が、がんにより罹患し、死亡者は60万6,880人と予測されている。近年になって日米両国国民に、がんの予防と治療に対する考え方が浸透してきたとはいえ、がんは依然として人類にとって深刻な問題であることに変わりはない。

見回せば各国では気鋭の研究者が次々と先端医療を生み出している。しかし、その一方で子どもたちや前途ある若者、子育てに励む主婦や一家の大黒柱が次々にがんによって打ちのめされ、天に召されているのである。

果たして、我々人類は、このままがんにより打ちのめされ続けたままで良いのだろうか。そのツケは必ず次世代の子どもたちに回ってくるというのに、である。

振り返ってみよう。我々の先人は古にペストや天然痘、結核など不治の病を克服し、あるいは撲滅してきたではないか。

たしかに今までがんを撲滅することは不可能だと言われてきた。だが、J. F. ケネディ大統領にしてもペストや天然痘、結核を撲滅しようと思立った人々も、そんなことは不可能だと言われてきたのである。

しかし彼らはこう考えたのだ。

『それでも不可能を可能に変えてみせよう！』と。

彼らが成し遂げたように不可能を恐れては何も始まらない。確かに我々の前には、とてつもなく高い壁が、聳え立っているのかもしれない。

だが、果たして小児がんの病棟にいる、あの子どもたちを救うことは不可能なのだろうか。

すい臓がんで苦しみ、悩んでいる人々を救うことは不可能なのだろうか。

病院のベッドの上で天井を見つめながら輝かしい未来と夢を思い描く、あの子どもたちを救うことは不可能なのだろうか。

今、我々は20世紀初頭を生きた米国の思想家でエルバート・ハバードの言葉を思い出そう。

彼はこう言った。

『挑戦をあきらめてしまうこと以外に敗北などない』と。

また古代ローマ帝国の哲学者セネカは、こう語った。

『難しいからやろうとしないのではない。やろうとしないから、難しくなるのだ』と。

だからこそ、我々も不可能を可能に変えるために立ち上がろうではないか。

我々は勇気を出してこう言おう。

今こそ、不可能を可能に変えよう！ と。

あのがんで苦しむ子どもたちや難病の人々が「かくありたい」と思う未来を、その手に届けてあげようではないか。

不可能を可能に変えて、人類をがんから解放しようではないか。

幸い日本では2013年9月、一人の作家によって「今こそオールジャパンでがんを撲滅しよう！」とがん撲滅サミットが提唱され、2015年6月9日、皇室、政府、財界、医療者、市民など心ある人々が集い、そして立ち上がり、そのアクションは本年度6回目を迎えることとなった。一方、アメリカでも「難病やがん克服のために再生医療を活用しよう」と公益資本主義を目指す一人の実業家が呼びかけたことによって、同様に政府、国連、財界、医療者、市民ら勇気ある人々が集い、声を上げ始めている。

であるならば約4000年というはるか太古より続いてきた人類とがんとの闘いに今こそ終止符を打とうではないか。

そのために、まず日本から始まったがん撲滅への挑戦をアメリカの勇気ある人々と連携して、世界に医療のパラダイムシフトを起こそうではないか。かつてアポロ計画を主導し、深遠なる宇宙を目指し、見事にこれを成し遂げたアメリカの偉大なる友人たちと共に、今度は人類の前に立ちはだかるがんという巨大な壁に戦いを挑もうではないか。

古代に少年ダビデが、ゴリアトという巨人を倒すためにたった一人で立ち上がったように、今こそ日米の勇気ある友人よ、恐れることなく巨大な敵に立ち向かおう。我々はケネディ大統領のような偉大なリーダーにはなれないかもしれない。だが、それでも臆することはない。なぜなら我々は名声よりもチャレンジする勇気を失うことの方を恐れるからだ。

今、我々はがん撲滅への挑戦を開始するため次のアクションを起こしたい。

まず、日米の叡智を結集して医療民主主義を確立しよう。与えられた治療から選択する治療へ。そして患者ファーストの社会を構築しよう。なぜなら、たとえ医療者であっても病は避けては通れないからだ。いつの日か医療者も患者になることもあるだろう。

つまり治す立場と治される立場は一体なのだ。

国民が国に何ができるかを考え、国が国民のために何ができるかを考える。

両者が向き合うときに初めて、より良い社会が構築されるのだ。ならば、大胆にAIを導入し、与えられる医療から望む医療が選択できる医療へとシステムを変えていこう。

これこそがプレジジョン医療である。

一人ひとりの体や経済力に合う治療、副作用に苦しむことが目的ではなく、体に負担のない治療を選択できる社会を築こうではないか。そのために日米プレジジョン医療チームを結成し、情報交換を開始しようではないか。

こうした目標を実現するためにも今、日米両国をはじめとする我々有志は、ともに手を携え、がん撲滅に向けた世界的なネットワークの確立に向けて記念すべき第一歩をここ日本と米国の地から互いに踏み出すものとする。

『攻めなければ負けしかない中、がん撲滅を目指すぐらいの意気込みは必須と感じます』

これは日本で開催された第1回がん撲滅サミットにおける高円宮妃殿下のお言葉である。我々は、このお言葉を胸に刻みつつ未来に向かって力強く前進していくことをここに誓う。

2020年11月15日

『日米がん撲滅サミット2020』大会長 原 丈人

米国代表（シカゴ大学プレジジョン
医療研究センターセンター長・教授）マーク・J・ラテイン

代表顧問・提唱者 中見 利男

“Japan-US Tokyo declaration for cancer eradication 2020”

As a result of the President J. F. Kennedy's advocacy of the Apollo program in May 1961, “Aim for the New Frontier,” mankind was able to land on the moon. And also, today in the 21st century, the major countries such as the United States, Russia and China are still engaging in fierce competition to land on the Moon and on Mars, working hard day and night, it is still no exaggeration to say that the New Frontier is in the universe.

With only one man, President Kennedy's determination to take action about 60 years ago, the universe turned into a new frontier, the scientific and technological benefits that human beings received are immeasurable.

But human beings might have forgotten that another New Frontier definitely exists on the earth. It is the “cancer eradication” that is the unexplored land of mankind.

The struggle to the death between mankind and cancer has been going on for about 4000 years, but alas, mankind has been overwhelmed by cancer rather than eradicating it. Today, one in two people is affected with cancer in Japan, one out of three patients die. Meanwhile, in the United States in 2019, 1,762,450 people are affected with cancer, and the number of deaths is estimated to be 600,880 people. In recent years, the idea of prevention and treatment of cancer has been spreading to the citizens of Japan and the United States, however, cancer remains a serious disease for mankind.

Looking around the earth, dedicated researchers are developing advanced cancer treatments one after another. On the other hand, the children, the young people suffer. Because the central pillar of the family, such as husbands and wives, suffer from cancer and pass away We must conquer cancer otherwise the children of the next generation inevitably must pay a high price for it.

Let's look back. Our pioneers in the past, have overcome or eradicated incurable diseases such as plague, smallpox and tuberculosis. Popular belief, has said that it is impossible to eradicate cancer. Those who challenged to eradicate the plague, smallpox, and tuberculosis, and even President John F Kennedy, who wanted to put a man on the moon, have been told by the people that such a thing is impossible. But they believed: “Still, I can overcome the impossible!” Eventually, they have achieved. Nothing changes if we are afraid of the impossible.

Certainly, in front of us, is a tremendously high wall to overcome. We should ask ourselves again,

- Is it possible to save those children in the childhood cancer ward?
- Is it possible to save those who are suffering from pancreatic cancer?
- Is it possible to save those children who are dreaming of a bright future while staring at the ceiling in the hospital bed?

Now, let's recall the words of Elbert Hubbard, an American thinker who lived in the early 20th century.

He said, “There is no failure except in no longer trying.”

Seneca, a philosopher of the ancient Roman Empire, said:

“It is not because things are difficult that we do not dare; it is because we do not dare that things are difficult” Because of this, we should stand up to change the impossible to possible.

We take the courage to say, “Now, it's time to make the impossible possible!” Let's bring the favorable future for the children suffering from cancer and for the people with intractable diseases. Let's make the impossible possible and free mankind from cancer.

Fortunately, in Japan, one writer raised that “Now it's time to eradicate cancer with all our resources in

Japan!”, the cancer eradication summit was proposed in September 2013. Then the imperial family, the government, the business world, medical professionals, citizens and people with hearts got together and stood up in the first Summit on June 9, 2015. The summit has brought these people together for its sixth year.

In the United States, a man who believes to create a society where every person can lead a healthy life until his or her last moment by applying the philosophy of Public interest Capitalism said, “Let's utilize regenerative medicines, gene therapies, immune therapies and other advanced treatments for overcoming cancers and incurable diseases” has inspired courageous people from the government, the United Nations, the business world, medical professionals and citizens similarly to get together and to raise their voices.

Consequently, let us put an end to the fight between cancer and human beings which has been continuing since ancient times.

To that end, let's bring about a paradigm shift in medicine in the world, based on the challenge of cancer eradication that began in Japan, together with courageous people in the United States.

Now let's challenge the huge wall of cancer that stands in front of human beings with the great friends in the United States who once led the Apollo program and aimed at the deep universe and succeeded.

Just as the young David stood up alone to defeat the giant Goliath, Now! brave friends of Japan and the United States, let's face a huge enemy without fear. There is no reason for us to hesitate. Because we should be more afraid of losing the courage to challenge than losing fame.

Now, we shall take the next action to start the challenge of eradicating cancer.

First, let's bring together the wisdom of Japan and the United States to establish democracy in medicine, changing treatment from conventional to selectable. Let's build a patient-first society in medicine because even medical professionals cannot avoid illness. One day, medical professionals may become patients. In other words, to treat and to be treated are in the same position.

Think about what the people can do for the nation and what the nation can do for the people. Only when both face each other, a better society can be built. Then, let's introduce AI and advanced information communication technologies to change the medical care system from the conventional to the selectable. This is the notion of precision medicine.

Let's build a society where we can choose treatments that are suitable for each patient's body and financial situation. Such treatments should not burden the body and minimize suffering from side effects. To this end, let's establish a Japan-US team to advance precision medicine. We should start exchanging information.

In order to achieve these definite goals, we should work together to establish a global network for the eradication of cancer. The first step will be taken here in Tokyo and next, from San Francisco.

“Whatever happens, under the circumstances where offense is the best defense and doing nothing is our defeat, I would like to put emphasis on the importance of our strong resolve to pursue the total destruction of cancer.”

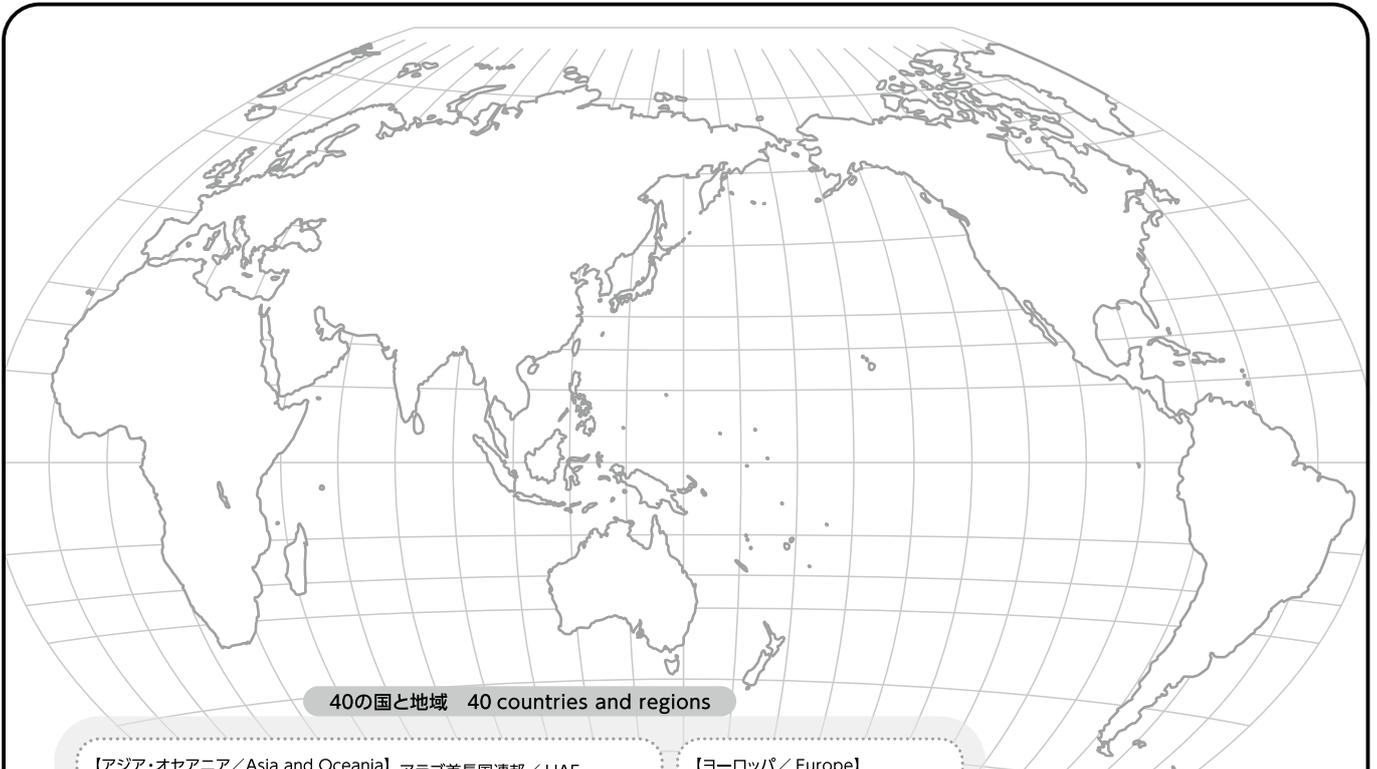
November 15, 2020

Ambassador George HARA, Executive Chairman, the Japan-US Cancer Eradication Summit 2020

Professor Mark J. RATAIN, the US Representative

(Professor, Director Center for Personalized Therapeutics, University of Chicago)

Mr. Toshio NAKAMI, Representative Adviser/Advocate, The Japan-US Cancer Eradication Summit 2020



40の国と地域 40 countries and regions

【アジア・オセアニア / Asia and Oceania】
 台湾 / TAIWAN
 香港 / HONGKONG
 タイ / THAILAND
 韓国 / SOUTH KOREA
 フィリピン / THE PHILIPPINES
 シンガポール / SINGAPORE
 インドネシア / INDONESIA
 オーストラリア / AUSTRALIA
 ニュージーランド / NEW ZEALAND
 マレーシア / MALAYSIA
 ベトナム / VIETNAM
 インド / INDIA
 中国 / CHINA
 ブルネイ / BRUNEI

アラブ首長国連邦 / UAE
 オマーン / OMAN
 バーレーン / BAHRAIN
 カタール / QATAR
 クウェート / KUWAIT
 ミャンマー / MYANMAR
 日本 / JAPAN

【アメリカ / The Americas】
 ブラジル / BRAZIL
 メキシコ / MEXICO
 アメリカ / USA
 ウルグアイ / URUGUAY
 カナダ / CANADA
 ベリーズ / BELIZE

【ヨーロッパ / Europe】
 オランダ / THE NETHERLANDS
 ベルギー / BELGIUM
 イギリス / UK
 アイルランド / IRELAND
 ドイツ / GERMANY
 オーストリア / AUSTRIA
 イタリア / ITALY
 ルクセンブルク / LUXEMBOURG
 フランス / FRANCE
 スペイン / SPAIN
 マルタ / MALTA
 スイス / SWITZERLAND
 デンマーク / DENMARK



世界で飲まれている プロバイオティクス、ヤクルト。

The Probiotic consumed around the world, Yakult.

プロバイオティクスとは、腸内細菌のバランスを改善することにより、ヒトの健康により働きをする、生きた微生物のことです。

腸に生きたまま到達するプロバイオティクス「乳酸菌 シロタ株」は、その働きが認められ、「ヤクルト」として、現在、日本をはじめ世界 40 の国と地域で飲まれています。

Probiotics are live microorganisms that benefit a person's health by improving the balance of intestinal microbiota. It has been recognized that the probiotic *Lactobacillus casei* strain Shirota reaches the intestines alive and it is currently consumed as "Yakult" in 40 countries and regions throughout the world, including Japan.

人も地球も健康に
Yakult

YAKULT HONSHA CO.,LTD.
 1-10-30, Kaigan, Minato-ku, Tokyo, 105-8660 Japan
<https://www.yakult.co.jp>

東レによるがん領域の開拓

先端材料の ライフイノベーション 分野展開

乳がん患者様向け
ハーフトップ



HugFit[®]

がん研有明病院と共同で、乳がん患者様の術後の放射線皮膚炎をケアしつつ快適に過ごせる患者様向け衣料を上市しました。
(2016年)



次世代の革新的がん治療法として世界中で注目・検討されているがんの抗体医薬に着目し、研究・技術開発に取り組んでいます。

先進医薬

がん抗体医薬の開発

東レのコア技術

有機合成化学
高分子化学
バイオテクノロジー
ナノテクノロジー

先制医療

(がん早期診断システム)

DNA チップを用いて
開発



13種類のがんと認知症を対象に、国立がん研究センターなどと連携。国内早期の診断薬申請を目指すと共に、米国への展開も予定しています。

life
innovation

東レのライフイノベーションへの取り組みには、2つのカテゴリーがあります。
1つめは、東レのさまざまな事業分野の**先端材料**を、医薬品・医療機器用資材、先進診断装置用部材などの**ライフイノベーション分野へ展開**すること。
2つめは医療分野で、**先進医薬**と、病気を早期に発見し治療してしまうという、**先制医療**がキーワードです。

漢方は、自然から。

漢方は、たくさんの人の手と想いを経て生まれます。

長い年月をかけて、樹木が豊かな山を育み、
その山で水が蓄えられる。

山で磨かれた水が、生薬をつくるための畑に注がれ、
生産農家のみなさんによって大切に育てられる。

人が本来持っている自然治癒力を高め、
生きる力を引き出すことを目的とした

漢方にとって、

「自然」はいのちを強くする力そのものです。

その力をそこなうことなく、
すべての人が受け取れる形にして届けたい。

そして健康に役立ててほしい。

100年以上、自然と向き合いつづけてきた
私たちツムラの願いです。

自然と健康を科学する。漢方のツムラです。



www.tsumura.co.jp

資料請求・お問い合わせは、お客様相談窓口まで。

【医療関係者の皆様】0120-329-970 【患者様・一般のお客様】0120-329-930

受付時間 9:00～17:30(土・日・祝日は除く)

(2019年5月制作)RSCAa01-D®

SDGsで、 未来をつなぐ

三井住友海上は、安心と安全の提供を通じて、
持続可能な社会の実現に取り組みます



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGsとは

2015年9月の国連サミットで150を超える加盟国首脳に参加のもと、全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に掲げられた「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals)」のことです。SDGsはすべての国の社会課題を対象とした17のゴールと、その課題ごとに設定された達成基準である169のターゲットから構成されます。このゴールとターゲットによって、包括的で持続可能な社会の構築を目指すものです。

持続可能な地球環境

事業活動における環境負荷低減への取組を進めるとともに、気象災害による被害や損失を軽減するためのサービスの提供を通じて、気候変動の緩和と適応に貢献します。

関連する主なSDGs	主な取組
	<ul style="list-style-type: none"> 再生可能エネルギーの普及支援 自然災害リスクモデルにもとづくコンサルティング

安心して暮らせる社会

SDGsの理念である「誰一人取り残さない」を実践するべく、年齢や性別等に関わらず、高品質なサービスを、より多くのお客さまに提供します。

関連する主なSDGs	主な取組
	<ul style="list-style-type: none"> 健康づくりの支援 先進技術を活用した利便性の高いお客さま対応

活力のある経済活動

多様な環境変化にともない発現する新たなリスクへの対応策を提案し、サステナブルな経済活動を支えます。

関連する主なSDGs	主な取組
	<ul style="list-style-type: none"> 次世代モビリティ社会への対応 (自動運転車等) 災害に強いまちづくりの支援

立ちどまらない保険。

MS&AD 三井住友海上

三井住友海上は、レジリエントでサステナブルな社会*をめざします。

*外部環境にしなやかに対応する、持続可能な社会

再生医療の明日を拓く 「セラボヘルスケアサービス」始動



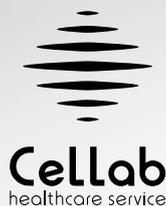
再生医療分野への新たな挑戦

ダイダシ株式会社では、再生医療の普及と関連事業の創出を目指して、2017年4月にオープンラボ「セラボ殿町」を開設し、医療施設やベンチャー企業の皆様に、新発想で使いやすい細胞培養加工施設（CPF）や、細胞培養加工に適した環境を構築する製品を開発してきました。

『セラボヘルスケアサービス株式会社』は、ダイダシ株式会社がこれまで培ってきた技術と実績を引き継ぎ

- ・細胞培養加工施設（CPF）の運用・構築コンサルティング、設計・監理
- ・再生医療向けの装置・機器類の製造・販売
- ・細胞培養加工施設（CPF）のレンタル、運用支援、細胞製造受託など

をはじめとした関連サービスを開拓して参ります。



セラボヘルスケアサービス株式会社

<https://cellabhs.co.jp/>



<https://www.daidan.co.jp/>

【お問合せ先】

〒210-0821 神奈川県川崎市川崎区殿町3丁目25番22号 ライフイノベーションセンター R407
TEL: 044-276-5010 FAX: 044-280-0036 e-mail: cellab-info@daidan.co.jp

生命保険協会は

超高齢社会を支えていくために
様々な取り組みを進めています。



相談・苦情受付

【生命保険相談所の運営】

生命保険相談所では、生命保険に関する相談や苦情について、お客様の疑問や悩みを整理し、解決に向けたアドバイスを行います。



高齢者への情報提供

【高齢者向け情報冊子の発行】

高齢者を対象とした、保険の加入から受取りに至るまでのあらゆる場面に関する情報や留意点をまとめた情報冊子を発行しています。

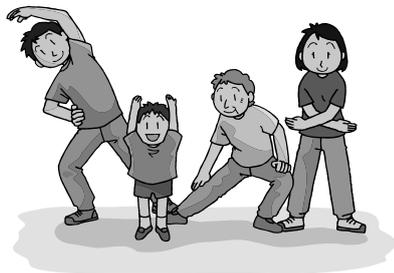


特殊詐欺の注意喚起

【被害防止啓発ポスターの作成】

オレオレ詐欺や架空請求詐欺など特殊詐欺被害防止のための啓発ポスターを作成し、注意喚起を行っています。

健康増進啓発活動



【健康寿命の延伸に向けた啓発活動】

健康寿命の延伸に向けた啓発活動を積極的に推進するために、全国各地のウォーキング大会に協賛しています。また、健康づくりに役立つ情報冊子の配布なども行い、健康増進に対する意識の向上に取り組んでいます。

生命保険協会ホームページでは、
様々な情報を掲載しています。
是非ご活用ください。

<http://www.seiho.or.jp>

生命保険協会

検索



日本建設業連合会は 社会貢献活動を推進しています

アイサワ工業(株)	青木あすなろ建設(株)	あおみ建設(株)	(株) 浅沼組
(株) 安藤・間	伊藤組土建(株)	岩田地崎建設(株)	(株) エム・テック
(株) 大林組	(株) 大本組	(株) 奥村組	オリエンタル白石(株)
鹿島建設(株)	鹿島道路(株)	株木建設(株)	北野建設(株)
(株) 熊谷組	(株) 鴻池組	五洋建設(株)	佐藤工業(株)
三幸建設工業(株)	清水建設(株)	ショーボンド建設(株)	西武建設(株)
(株) 銭高組	大成建設(株)	大成ロテック(株)	大日本土木(株)
大豊建設(株)	高松建設(株)	(株) 竹中工務店	(株) 竹中土木
鉄建建設(株)	東亜建設工業(株)	東急建設(株)	東洋建設(株)
戸田建設(株)	飛島建設(株)	(株) ナカノフドー建設	西松建設(株)
(株) N I P P O	日本国土開発(株)	日本道路(株)	(株) 長谷工コーポレーション
(株) ピーエス三菱	(株) 福田組	(株) フジタ	(株) 不動テトラ
(株) 本間組	前田建設工業(株)	前田道路(株)	松井建設(株)
(株) 松村組	三井住友建設(株)	みらい建設工業(株)	村本建設(株)
寄神建設(株)	若築建設(株)		

日建連「社会貢献活動協議会」構成 58 社

魅力的なまちづくりの推進や
豊かな住生活の実現を通じ、
日本経済の持続的な成長に
貢献してまいります。

昭和 38 年に社団法人として設立された不動産協会は、国民生活の向上と日本経済の持続的な成長に向け、土地、都市、住生活などに関わる諸問題について、様々な政策提言を行うとともに、調査・研究、社会貢献活動等に取り組んでおります。

日本経済が緩やかな回復基調にある中、今後も、国際競争力のある大都市の創造、魅力的なまちづくりの推進、豊かな住生活の実現、環境への取組み等を通じ、持続的な成長の実現に貢献してまいります。

一般社団法人 **不動産協会**

理事長 菰田 正信



株式会社 エフ・アール・シー・ジャパン

Proud sponsor of the
2020 Cancer Eradication Summit

**MIRAI
TRUST
INCORPORATED**

想いを未来に つなぐために

未来トラスト株式会社およびグループ会社は
だれもが自分自身の可能性にチャレンジでき
日本が国際的に貢献できる社会の実現に向けて
新しい金融の仕組みづくりに取り組んでいます

Toward The Future

未来トラスト株式会社
未来サポート信託株式会社（運用型信託会社）
JPIマネジメント株式会社（ファイナンシャルアドバイザー）
未来公益研究所（研究開発支援）
ミライコドモトラスト（人材育成支援）
一般社団法人ソーシャルトラスト支援センター



<https://miraitrust.co.jp>

各種 AI ソリューションのご案内

異常検知システム

AIがカメラを通じて事前に学習したペットからの転落や特定の患者の徘徊等を検知し、スマートフォンやパソコンにアラート通知致します。

AI 一次診断システム

肺がん等一定のデータの蓄積ある病気についてAI解析し、1次診断するシステムです。

肺がん〇〇%

自動受付会計システム

事前受付から会計まで顔認証で処理するシステムです。会計漏れ等防ぐことも可能です。

オンライン資格確認システム

厚生労働省が推進している取り組みで、マイナンバーカードのICチップや健康保険証の記号番号等により、オンラインで資格情報の確認が可能です。

※顔認証付きカードリーダー、ICチップリーダー、スキャナー搭載

体温検知カメラ

非接触で複数人同時検知を行い、発熱者やマスクの未着用に対してアラートが鳴るような設定も可能です。

Pad 型カメラ

非接触で来場者や従業員の検温、入退場の管理を行うことが可能です。



TRIBE HOLDINGS JAPAN

製品に関するお問い合わせはこちら

トライブ・ホールディングス・ジャパン株式会社

〒104-0043 東京都中央区湊 3-6-1 amビル6F

Tel : 03-6869-4100 Fax : 03-3370-8444

さまざまなニーズに合わせた
総合不動産会社です



ジャパン エステート株式会社

本 社 〒541-0042
大阪府中央区今橋2丁目5番8号トレードピア淀屋橋16F
TEL : 06-6233-3188 FAX : 06-6233-3187

東京支社 〒104-0061
東京都中央区銀座1-2-4 サクセス銀座ファーストビル6F
TEL : 03-5159-1238 FAX : 03-3564-0040
URL : <http://www.jpe.co.jp>



総合不動産企業として
全国に土地を展開し、
都市づくりをプロデュースします。



アーク不動産株式会社

本 社

〒541-0042 大阪市中央区今橋2丁目5番8号 トレードピア淀屋橋
TEL. 06-6231-7721 (代表) FAX. 06-6231-7722

東京支店

〒104-0031 東京都中央区京橋1丁目12番5号 京橋YSビル6階
TEL. 03-5159-2136 (代表) FAX. 03-5159-2175

京都支店

〒604-8153 京都市中京区烏丸通四条上る笋町691番地 りそな京都ビル9階
TEL. 075-256-8477 (代表) FAX. 075-256-8478

名古屋支店

〒450-6040 名古屋市中村区名駅一丁目1番4号 JRセントラルタワーズ40階
TEL. 052-307-6301 (代表) FAX. 052-307-6302

福岡支店

〒810-0041 福岡市中央区大名2丁目8番19号 大福ビル
TEL. 092-738-5790 (代表) FAX. 092-738-5791

<http://www.ark-re.co.jp>



メディカルサービス

株式会社

医療と保育を通して人々の笑顔のために



メディカルサービス株式会社

本社：〒563-0023 大阪府池田市井口堂1-10-10

ひとつの新薬が生まれるたび、
世界は少し幸福になる。

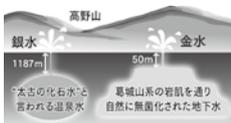


いまだ克服できていない病気や、
さまざまな患者さんの満たされない想い。
いま、必要とされている薬は、一様ではありません。
私たちは独自の研究開発を積み重ねながら、
世界のバイオ企業や研究機関とも積極的に手を結び、
これまでにない新薬の開発に全力で取り組んでいきます。
人々の幸福に少しでも力になれると信じて。

願いをこめた新薬を
世界のあなたに届けたい。
小野薬品



「ミネラルウォーター 月のしずく」
届けたいのは
「いのち」とつながるお水です。



「月のしずく」は、和歌山県橋本市神野々にある天然温泉施設「ゆの里」に湧く「金水」と「銀水」と呼ばれる2つの天然水をブレンドしたミネラルウォーターです。



お問い合わせは

TEL 0736-32-2929 FAX 0120-34-2326

「ゆの里」公式ホームページ www.spa-yunosato.com



ALSO Kの介護

「ALSO Kの介護」は、一人ひとりのお客様に誠実に寄り添い、お客様の自分らしい暮らしをサポートすることで、お客様から確かな信頼を得るとともに、社会の負託に答えてまいります。



■ 多彩なお客様ニーズに
対応可能なサービス網



■ ALSO K独自の健康
増進プログラムの提供



■ 全介護施設に
警備システム導入



ALSO K介護株式会社

埼玉県さいたま市大宮区三橋2丁目795番
TEL: 048-631-3690

※10月1日にグループ介護会社を統合しました



TOTOの ユニバーサルデザイン

つくるって、人を思うこと。

どんな人が使うかを、思う。
その人はどんなことに困るかを、思う。
その人はどうすれば快適かを、思う。
できる限りたくさんの「その人」を、思う。

モノをつくるとき、空間をつくるとき、
TOTOが最初から最後まですることは、人思い。
すべての人の、よりよい暮らしのために、
とことんすべきことは人思いしかない。
優しさと知恵と技術と努力。

ユニバーサルデザインは、TOTOのすべてです。



TOTO

商品のお問い合わせは TOTOお客様相談室 ☎0120-03-1010 受付時間 9:00~17:00 (夏期休暇・年末年始を除く)
TOTOユニバーサルデザインサイト <https://jp.toto.com/ud>

環境事業

土木

建築

型枠

自然と社会と心の調和 そして 融合



株式会社 オキ・コーポレーション

〒210-0821

神奈川県川崎市川崎区殿町 2-3-15

TEL 044-280-1701 FAX 044-280-1702

URL www.oki-cp.co.jp

OKI
CORPORATION

代表取締役会長 **沖山 朝紀**

代表取締役社長 **沖山 純子**

～がん撲滅サミットは 『患者の権利 2020』を応援します！～

『患者の権利 2020』

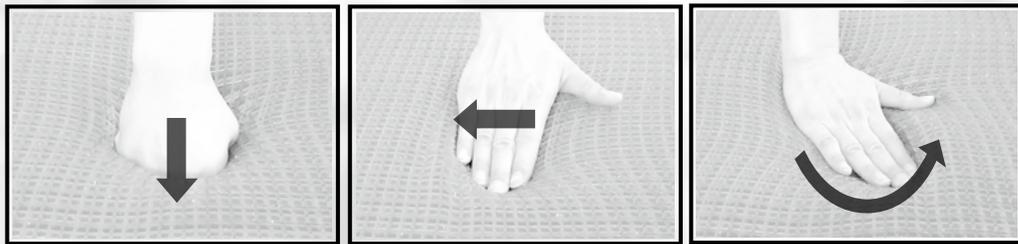
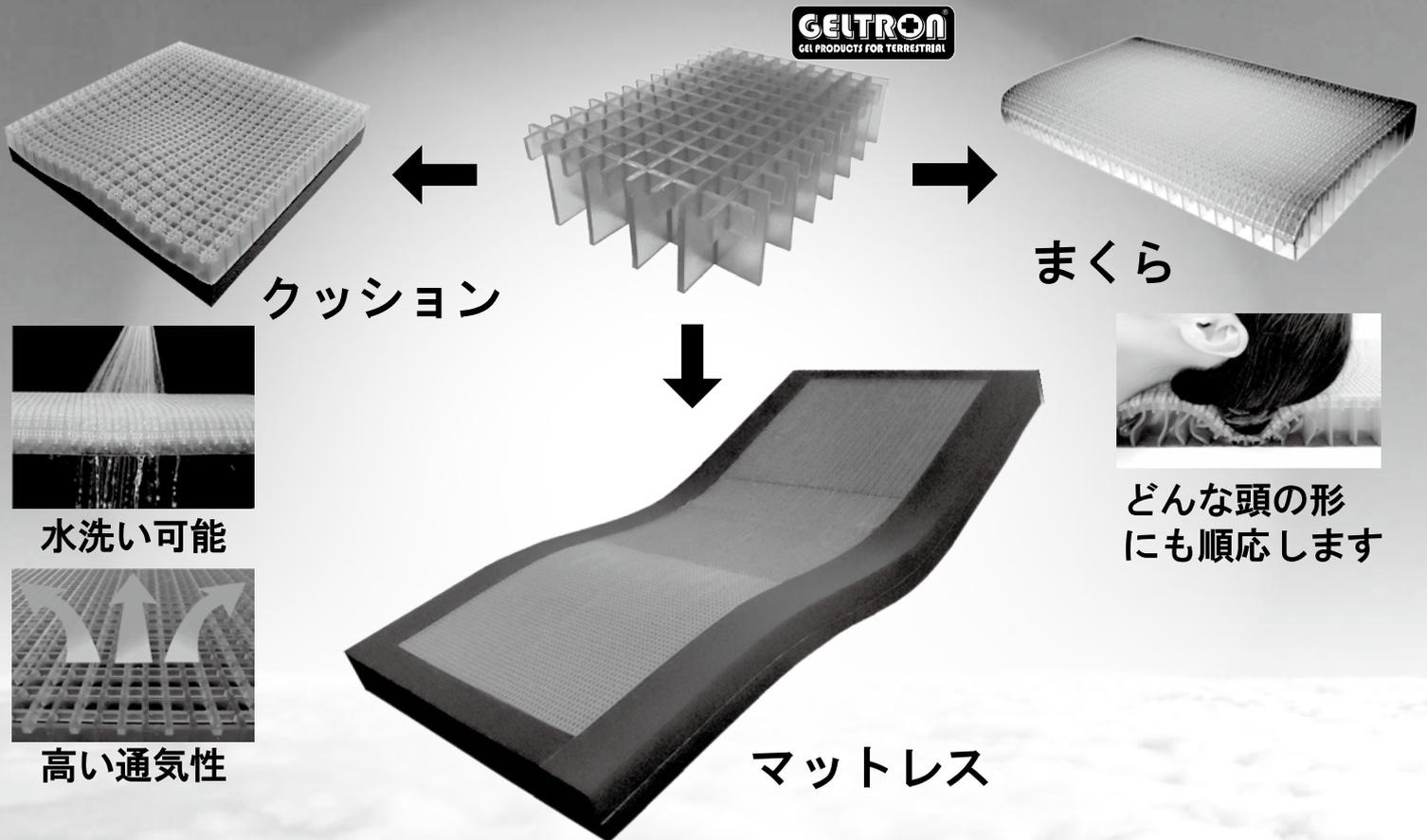
患者の求めがあれば、

- (1) 治療経緯を記載した紹介状を速やかに発行すること
- (2) 画像データの開示
- (3) 手術後のがん組織の提供
- (4) がん拠点病院として、その患者の治療経緯のデータ保存
- (5) 紹介状発行後の継続治療の保証と治療拒否の撲滅

がん医療が患者のために変わることを祈っています。

すい臓がんサバイバー 高村 僚 氏 提唱

「床ずれ防止」を実現する素材
多層一体格子型ジェル「ジェルترون」で
介護する人・される人、双方をサポートします



体圧分散性に優れ、ずれ、ねじれの力を吸収することにより血流を安定させ
熟睡率の向上と高い床ずれ防止特性をつくり出すことに成功しました。
弊社は1990年頃のウォーターベッドブームを推進したメーカーです。
その経験と技術を基にジェルترونを開発いたしました。



株式会社パシフィックウエーブ
〒624-0036 京都府舞鶴市京田 187-1
TEL:0773-75-8688 <http://geltron.jp/>

パシフィックウエーブは がん撲滅サミットを応援しています

みやび坂総合法律事務所は、JR 新宿駅から徒歩 5 分の
リンクスクエア新宿に所在する法律事務所です。

弁護士の高橋淳(『日米がん撲滅サミット 2020』法律顧問)、
光野真純及び宮川利彰は、がん患者及び良心的ながん専門医
を法的観点からサポートする業務を行っております。

取扱業務

- ◆ がん患者の休職および退職に関する法律問題
- ◆ 不当に高額な診療請求等についての対応
- ◆ クレイマー患者等に対する対応
- ◆ 医療法人の経営等に関する法律問題 (労務問題を含む)
- ◆ がん患者及び家族に対するサポート
- ◆ その他、がん関連法務全般



『日米がん撲滅サミット2020』法律顧問
弁護士・弁理士 高橋 淳
(東京弁護士会所属)

1998年弁護士登録。
2003年日弁連知的所有権委員会(現:日弁連知財センター)委員に就任。
2005年経済産業省主催の「営業秘密の適正管理のあり方に関する研究会」の委員に就任。
2005年特許庁工業所有権審議会臨時委員に就任。
2008年日弁連知財センター委員に就任。
2014年工業所有権審議会試験委員(弁理士試験)に就任。

みやび坂総合法律事務所

東京都渋谷区千駄ヶ谷5-27-5リンクスクエア新宿16階
TEL:050-5534-8882 FAX:03-6701-7231



JAPAN AIRLINES

頑張れ！ 日本の翼！

『日米がん撲滅サミット 2020』は日本の翼を応援しています！

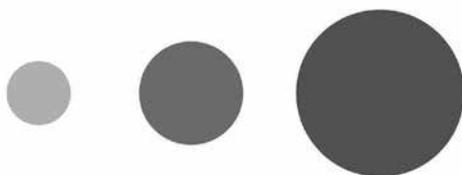
SANOBI 



岡山県極真空手道連盟



SMASH 株式会社スマッシュ



streams

協賛企業、団体、ご寄付者一覧（順不同）

一般社団法人 生命保険協会 様
一般社団法人 日本建設業連合会 様
株式会社ヤクルト本社中央研究所 様
日本航空株式会社 様
三井住友海上火災保険株式会社
トライブ・ホールディングス・ジャパン株式会社 様
株式会社エフ・アール・シー・ジャパン 様
ジャパンエステート株式会社 様
メディカルサービス株式会社 様
ALSOK 総合警備保障株式会社 様
株式会社重岡 様
みやび坂総合法律事務所 様
岡山県極真空手道連盟 様
坂本泰子 様

一般社団法人 日本損害保険協会 様
一般社団法人 不動産協会 様
東レ株式会社 様
株式会社ツムラ 様
ダイダン株式会社 様
小野薬品工業株式会社 様
未来トラスト株式会社 様
アーク不動産株式会社 様
TOTO 株式会社 様
株式会社オキ・コーポレーション 様
株式会社パシフィックウェーブ 様
サノフィ株式会社 様
日米がん撲滅サミット 2020 参加者の皆様

他の皆様、ご支援本当にありがとうございました。

謝辞

皆様方のご支援に心より感謝申し上げます。

亡き北島政樹先生はじめ『日米がん撲滅サミット 2020』開催に対しまして多大なるご支援をいただいた牧野徹先生、二川一男先生、ご来賓、ご講演をいただいた皆様をはじめ、内閣総理大臣 菅義偉先生、また代理として内閣総理大臣補佐官 和泉洋人様、厚生労働大臣 田村憲久先生、厚生労働事務次官 樽見英樹様、文部科学省科学技術・学術政策局長 菱山豊様、アライアンス・フォーラム財団 代表理事 原文人先生、丹治幹雄様、磯野昌英様、熊地叔子様、公益社団法人日本医師会 会長 中川俊男先生、一般社団法人 日本医学会連合会 会長 門田守人先生、東京都知事 小池百合子先生、志方俊之先生、熊本県知事 蒲島郁夫先生 ほか、大会パンフレットにメッセージをお寄せいただいた皆様、細川恒先生、厚生労働省大臣官房総括審議官 佐原康之様、厚生労働省 内閣官房審議官 大坪寛子様、厚生科学課長 佐々木昌弘様、医療機器審査管理課長 河野典厚様、がん・疾病対策課の皆様、公益社団法人日本医師会 の皆様、藤田医科大学病院 国際医療センター センター長、教授 前田耕太郎様、山内千里様、番匠幸一郎様、一般社団法人防衛技術協会 参与 國重博史様、東京大学大学院 國重莉奈様、北岡優希様、谷田部二郎様、ライオンズクラブ国際協会第 99 代国際会長、社会医療法人 厚生会木沢記念病院理事 山田實紘先生、佐治重豊先生、山形大学医学部 参与 嘉山孝正先生、株式会社エフ・アール・シー・ジャパン 代表取締役社長 清水美津様、取締役 濱田充様、ジャパン エステート株式会社 代表取締役社長 西田宏様、本社管理部部長 山野拳司様、未来トラスト株式会社 代表取締役 CEO 四方田良紀様、遠山宏美様、メディカルサービス株式会社 代表取締役社長 秋本孝幸様、株式会社アドバンス 代表取締役社長 渋谷君美義様、株式会社パシフィックウェーブ 代表取締役 田中啓介様、トライブ・ホールディングス・ジャパン株式会社 代表取締役社長 山本雄一郎様、宮下純一様、三井住友海上火災保険株式会社 公務開発部長 福田和弘様、石田憲生様、株式会社ツムラ 代表取締役社長 加藤照和様、漢方研究開発本部長 今田明人様、東レ株式会社 代表取締役副社長 阿部晃一様、橋本和司様、松田良夫様、曾根三郎様、ALSOK 総合警備保障株式会社 代表取締役社長 青山幸恭様、一般社団法人日本生活習慣病予防協会 名誉会長 池田義雄様、一般社団法人 経済団体連合会 事務総長 久保田政一様、常務理事 藤原清明様、総務本部 審議役 井ノ川正明様、総務本部 統括会員主幹 東智樹様、飛田康男様、公益社団法人 経済同友会 会長、日本商工会議所 専務理事 石田徹様、産業政策第一部長 山内清行様、総務部長 塩野裕様、課長 新田大介様、一般社団法人 生命保険協会 副会長 佐々木豊成様、事務局次長兼総務部長 宇田川俊秀様、一般社団法人 日本建設業連合会 常務執行理事 原田健様、事務局長 佐沢英紀様、江川真紀子様、一般社団法人 不動産協会 専務理事 内田要様、事務局長 森川誠様、国立国際医療研究センター 理事長 國土典宏様、秘書 鈴木広子様、公益財団法人 日本対がん協会 会長 垣添忠生先生、一般社団法人 Medical Excellence JAPAN 理事長 近藤達也様、業務執行理事 北野選也様、読売新聞東京本社 解説部長 山口博弥様、医療部長 館林牧子様、東京熊本県人会の皆様、東京都福祉保健局 医療政策部 計画推進担当課 千葉清隆様、渡辺昌則様、同医療政策部 医療政策課 統括課長代理 小澤双幹様、一般社団法人 情報サービス産業協会 常務理事 廣瀬毅様、一般社団法人 コンピュータソフトウェア協会 理事・事務局長 原洋一様、日本製薬団体連合会様、一般社団法人 日本損害保険協会 副会長 牧野治郎様、塚本真之様、宇田川友順様、YKKap 顧問 小山田誠太郎様、TOTO 株式会社 特販本部長 吉田伸典様、株式会社重岡 代表取締役社長 重岡昌吾様、弁護士 高橋淳様、加藤恒也様、三好立様、堀信一様、中見理嘉様、岡山県極真空手道連盟 代表 西田憲治様をはじめとする皆様、塚本恭史様、木村重明様、有路友一様、相澤直也様、越山裕基様、高村僚様、山内こずえ様、大森茂様、国際医療福祉大学 医療福祉管理部 総務部 吉野里美様、株式会社 ストリームス様、株式会社 スマッシュ様、株式会社 グラムリンク様、株式会社 エキスプレス 代表取締役 会長 大富國正様、取締役 田村堅三様、プロデューサー 吉野亮太様 ほかの皆様、サイマル・インターナショナル 陽栄里子様、日高れい子様、西田直子様、MC 藤村由紀子様、東京ビッグサイト様、日本体育大学の皆様、日本体育大学ボクシング部の皆様 ほか、あえてここにお名前を掲載しておりませんが、『日米がん撲滅サミット 2020』開催にあたり、ご尽力いただきました皆様、心より感謝申し上げます。引き続き『世界がん撲滅サミット 2021』をご支援いただけますと幸いです。

『日米がん撲滅サミット 2020』実行委員会一同
＜2020年11月1日現在。敬称略・順不同＞

※本大会で使用する楽曲は、JASRAC のご理解をいただいております。

～がん撲滅サミットは 『患者の権利 2019』を応援します！～

『患者の権利 2019』

患者の求めがあれば、

- (1) 治療経緯を記載した紹介状を速やかに発行すること
- (2) 画像データの開示
- (3) 手術後のがん組織の提供
- (4) がん拠点病院として、その患者の治療経緯のデータ保存
- (5) 紹介状発行後の継続治療の保証と治療拒否の撲滅

がん医療が患者のために変わることを祈っています。

すい臓がんサバイバー 高村 僚 氏 提唱

2021年、いよいよ日米から世界へ！

今、大阪から始まる
がん撲滅への世界的挑戦！

～2025大阪・関西万博成功祈念～

世界がん撲滅サミット2021

参加無料(要事前予約) <https://cancer-zero.com>

大阪初開催決定！

2021年12月5日(日)

開演 13:00【開場12:30】

会場 大阪国際会議場

アインシュタイン・プロジェクト プレゼンツ

『がん撲滅AIサミット』東京開催決定！

～今、日本から始まるAIのある未来への挑戦！～

2021年11月6日(土)

開演／13:00 【開場／12:30】

会場／経団連ホール

※いずれも2020年11月15日現在の予定です

主催 | 世界がん撲滅サミット2021実行委員会

後援

外務省、厚生労働省、文部科学省、国土交通省、経済産業省、総務省、農林水産省、デジタル庁
国立研究開発法人日本医療研究開発機構、国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所
東京都、公益社団法人日本医師会、公益財団法人日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団
一般社団法人日本経済団体連合会、日本商工会議所、公益社団法人経済同友会
日本製薬団体連合会、一般社団法人日本建設業連合会、一般社団法人不動産協会
一般社団法人生命保険協会、一般社団法人日本損害保険協会、一般社団法人全国警備業協会
一般社団法人情報サービス産業協会、一般社団法人コンピュータソフトウェア協会
一般社団法人Medical Excellence JAPAN、読売新聞社(予定)